



発行 **東京清陵会**(諏訪清陵高等学校同窓会・東京支部) 会長=藤森宏一 編集 83回生(昭和52年入学) <http://tseiryoku.com/index.html>  
 事務局 〒113-0033 文京区本郷1-10-14 加奈利屋館7F TEL&FAX 03-3812-5887 mail [tokyo-seiryokai@eos.ocn.ne.jp](mailto:tokyo-seiryokai@eos.ocn.ne.jp) DTP=スタジオパラム 印刷=サンライズ

## 東京清陵会第50回記念総会を控え

# 清陵今昔

## 自反而縮雖千萬人吾往矣

今回、東京清陵会が50回目の総会を迎えるにあたり、今年度の「東京清陵会だより」は、昨年120周年を迎えた旧制諏訪中学・諏訪清陵高等学校がこれまでたどってきた歩み、その移り変わりについて注目してみようと「清陵今昔」をテーマに企画を組んだ。母校は時代の流れの中で徐々にその姿を変えてきている。共学化を含む入学生の状況、中学校の併設、卒業生の動向など、目に見えるものの変化は、多くの卒業生にとってわかりやすい。一方、目に見えにくいもの、例えば「伝統」とか「文化」というものは、変化したかに思うものの、個々の卒業生は、自分が在籍した時期を含むごく短期間しか知るよしがなく、変化の察知は「なんとなく」でしかない。



そこで、特集1ではそのまま「清陵今昔」と題し、目に見えにくいものの変化の事実やその時期、理由・背景などを探ろうと考えた。こうした変化を正確に探るの

は難しいが、ある程度の実事と、重ね合わせることで、みえてくる何かがあるのではと、母校の「伝統」や「文化」を象徴的に構成していたと思われる、地

方会(歓迎会・試胆会)、校歌、談論会、(金色の)民、清陵祭に關しての「情報シート」の作成を37回生から118回生までの学年幹事の皆様にお願ひした。回収できた

多くのデータをもとに、過去から現在までの貴重な状況事実を洗い出し、俯瞰することで、緩やかながら確実に生じている変化の一部を捉え、考察を加えてみた。

また、特集2では、活躍を広げている女子に光を当てた。初めて女性が入学したのが昭和25年。その56回生以来、巣立っていった多くの清陵女子!! いくつかの世代の女性の卒業生の方々に、自由に書いて寄稿してもらった。ご回答・ご寄稿いただいた皆様には心よりの感謝を申し上げます。

(83回生 岡本徹)

## 2016年度 東京清陵会 第50回記念総会案内

■日時:2016年10月2日(日)12時~16時30分

●総会:12時~

(受付開始11時~ 昼食の用意はございません)

●基調講演ほか:13時~ 中山千恵子ほか

●懇親会:14時~16時30分

■場所:アルカディア市ヶ谷(私学会館)3階「富士の間」

東京都千代田区九段北4-2-25 電話03-6685-0541

※市ヶ谷駅(JR、東京メトロ有楽町線、南北線、都営新宿線)下車、徒歩2分

■懇親会会費:8,000円(58回生以前は無料ご招待、学生は2,000円)

※当番幹事:83回生、次期当番84回生

サブ幹事93回生、103回生、113回生

※詳細は次ページを参照ください。

※東京清陵会ホームページもご覧ください。

●ご面倒ですが

出席、欠席いずれの場合でも 同封の返信用はがきにご記入の上、9月16日(金)必着にてご返送ください。

# 50回目の総会を迎えて

会長 藤森宏一(63回生)



皆様には、日頃から東京清陵会の活動にご支援ご協力いただきお礼申し上げます。

東京清陵会は、諏訪清陵高等学校同窓会の東京支部として昭和27年に発足し、第1回総会が「椿山荘」で開催されました。その後は毎年の開催ではありませんでしたが、昭和47年第6回総会以降は毎年開催され、平成6年には「東京清陵会」と名称を変更し、今年で50回目の総会を迎えることになりました。

これまで盛会で継続できましたのは、毎年幹事を務める満55歳を迎える学年の皆さんが、最も多忙を極める年代にも拘わらず、献身的に活動に参加されたことと歴代役員の方々のボランティアのご支援の賜物だったと感謝申し上げます。

毎年、当番幹事担当を機会に、卒業後初めての再会、同期会の発足や活発化などが見られましたが、55歳の時に幹事を経験しなければこの様な機会が得られなかったかもしれず、負担は重いと思いますがこの制度は継続したいものです。

ここ数年は、82回生～84回生を中心とした有志の皆さんによる「東京清陵会を活性化するワーキンググループ」の活

躍により、同窓会活動が文字通り活性化してきました。それまでの総会ならびに会報発行中心の活動から「新卒歓迎・学生交流会」「ミドル交流会」など多くの行事を行ったことにより、総会参加者が幹事を終えた世代以降に偏った傾向にあったものが、今まで少なかった現役学生、若手同窓生や女性の出席が増えました。

これらの行事に参加した学生や若手社会人は、幅広く活躍する清陵同窓生との交流に同窓会の魅力を十分認識したようでした。行事については、近年、母校の女子卒業生は4割を超えており、女子会員が増える傾向にあることを踏まえて、88回生を中心に準備中でありました「東京清陵女子会」を7月に開催いたしました。また学生対象に就活を終えたばかりの若手社会人の協力を得て「プレ就活イベント」の開催を11月に予定しております。これらの行事に携わるワーキンググループメンバーはじめ担当する皆さんはかなりの力仕事になっております。その献身的な活動に対し敬意を表し感謝申し上げます。

同窓会に対する思いや期待は、世代により異なりますが、東京清陵会は、多感な10代後半に清水が丘で学んだ老・壮・青の皆さんが、交流し、学び、母校を思うことのできる良い場所だと思います。是非、行事などを通して多方面で活躍している先輩・同輩・後輩との色んな出会いの機会として活用していただきますようお願いしております。

東京清陵会は、皆様から納入いただく

会費ならびに賛助金で活動・運営しておりますが、永きにわたり財政問題を抱えてきました。これまでに複数回の会費改訂、1,230名の方々に賛同をいただいた終身会員制度の導入と廃止、会費徴収方法の見直しならびに賛助金制度導入にご支援ご協力をいただけてきました。皆様のご理解となによりも清陵に寄せる熱い思いとご好意により、賛助金制度を導入して以来、毎年賛助金納入額が会費納入額を上回り、辛うじて収支バランスを維持しておりますが、賛助金に頼る不健全な状況にあります。東京清陵会の財政均衡、運営安定のため、皆様には引き続き会費ならびに賛助金の納入にご協力いただきますようお願い申し上げます。

東京清陵会の行事情報等は、皆さんにお届けしている会報及びホームページでお知らせしておりますが、まだ充分でなく、ホームページの充実やフェイスブック等SNSの活用も課題であり、会員の活動情報の発信を含め検討を継続してまいります。

昨年から総会開催日を、高齢会員や女性会員が、また平日夜間では時間的制約のある会員が出席しやすいように休日の昼間といたしました。母校創立120周年記念と重なり久々に300名近い出席者があり盛会でした。

今年は83回生が担当し、工夫を凝らして準備をしております。来たる10月2日の総会には多くの皆さんの参加をお待ちしております。

あの、日本一長いと言われる校歌と一緒に声高らかに歌いましょう。

## 2016年度 東京清陵会第50回記念総会案内(詳細)

◆**基調講演 中山千恵子**(83回生 音楽プロデューサー)  
L'Arc-en-Ciel、HYDE、VAMPS、ゴスペラーズなどをプロデュース。CHEMISTRY、城田優、渡辺真知子なども手がける。

◆**ミニライブ 藤森敬一**  
(83回生 元小中学校教員 シンガーソングライター)  
2015年おやじバンドフェスティバルin Nagano 2015でグランプリ受賞。

◆今年も**学年対抗参加人数コンテスト**をします。  
先輩部門(82回生以前)、後輩部門(84回生以降)優勝学年には82回生から寄贈された持ち回り優勝カップを贈呈します。

◆第50回記念総会  
**オリジナルラベル清酒セット「清陵今昔」**  
も試飲コーナーにてご賞味を!! ご注文は同送の注文用紙をご覧の上宮坂醸造株式会社へ直接お申込み下さい。

特集

1

# 清陵今昔

## 自反而縮 雖千萬人 吾往矣

諏訪清陵高校は時代と共に変わり続けてきた。

変わらない清陵、変わりゆく清陵を、各世代へのアンケートを通じて紹介し、清陵今昔を振り返る。

### 1. 【地方会】の今昔

現在健在なOBが知りうる限り、県下ではわずか2校にしか存在していなかったという「地方会」の存在は、少なくともかつては、国体ならぬ清陵の骨格の一部を成す重要要素の一つではなかったか。

しかしそんな地方会は、消滅した。

#### (1) 新入生「歓迎会」について

新入生歓迎会は、内容に多少の違いはあるものの、戦時中の一時期を除けば、ほとんどの時代にも行われてきた。

大きくは、入学前に召集があり、事前の試験(?)や校歌指導を受けるパターンと、入学後の初回例会等で同様のことを行うパターンであったようだ。

入学前では、合格発表時に早速先輩が自宅を訪れ、歓迎の胴上げや「金色の民」を行ってくれたり、出身中学に集まり、長い長い校歌の歌詞を渡され、指導を受けて、入学あるいはその後にある試胆会までに覚えるよう指示を受けるものが多かった。新入生は入学までに見たこともない長い歌詞の校歌を必死で覚える努力をしたという(最近は変わってきているらしい……後述)。

入学前、あるいは入学後初めての会で受けたどの地方会にもほぼ共通した歓迎(洗礼?)行事は、自己紹介に対する先輩との厳しい質疑応答やお説教と、地方会によってはハードなトレーニング等を挟んで、夜は世にも不味い、主に「カレー、の夕食会だ。カレー、は地方会により多少バリエーションがあり、闇鍋風もあれば、草やら何やらが入ったとにかく不味いあるいは辛いカレー、中でも多かったのが「緑色のゲテモノカレー」(ミミズ煎じ茶(?)やタバスコ入り酢スープのような飲み物付き)などであった。

おそらく地方会同士で情報交換もしていたのだろう。各会で伝統のように続いている趣向はあろうものの、大きくは変わらない内容の歓迎が行われていたようである。

また、75回(S44)の富士見南嶺会や79回(S48)の上諏訪学生団、あるいは100回(H6)以降の幾つかのように、歓迎会と次項でみる試胆会を兼ねて行う地方会もあった。

こういった、新入生にとって「強烈な印象に残る歓迎会だが、80回(S49)を超えたどこかでピークを打ったのかもしれない。83回生(S52)後藤さんによれば、やはり入学時には前述のような激しい歓迎会が各地方会で行われた。しかし「保護者から学校に苦情があり、また新入生の1名が学友会後の談論会で地方会離脱を宣言」。「1年全員と教師が集会を開いたが賛否両論」に終わったという。その後も99回(H5)には、まだ「強烈な歓迎会」と「強烈な試胆会」を行った地方会があったことを確認できた。

今回100回代の情報が極めて手薄となったが、唯一103回生(H9)の情報によれば、まだ当時も「校歌指導、闇カレー、暗闇での面接」という歓迎会があった。だが110回(H16)頃から歓迎会は内容的に変質したように見える。手作りカレーはそのままだが、それまでの厳しい指導や説教に代えて、猥褻な内容のテストと結果に応じた面接というパターンが増えてきた。

それでも、世は学校でのいじめが頻繁に問題となり、事件化される時代となり、遂に110回(H16)には(おそらく保護者から)学校に対するクレームが複数発生。新聞にも掲載され、その後の地方会廃止への引き金の一つになった。



なつかしの学舎

#### (2) 「試胆会」について

試胆会は歓迎会同様、古いところでは46回(S15)以降、ほとんど全ての地方会で実施され、99回(H15)あたりまで続いてきた(戦時中を除く)。

実施時期は4月から5月上旬までが多く、場所は小中学校周辺や近くのお寺、そして多かったのがやはり墓地や裏山(山中)といった人気のない寂しいところ。

一人ずつ歩かされて、いくつかある関所的なポイントで、待ち受けていた先輩たちに厳しく可愛がられる(?)のが基本的なパターンであった。公民館など屋内で実施する場合は、関所の代わりに部屋に一人ずつ呼ばれることになる。

内容は、校歌指導や練習の成果確認、「先輩オーツ」の復習といった硬いメニューもあったが、大半は新入生が一晩かけて先輩たちに「可愛がられて、怖い思い、恥ずかしい思いをして夜を明かしたというもの。新入生はどう思っていたのか。夜明けまで先輩たちと濃密な時間を過ごし、地方会によっては豚汁を作って食べたりすれば、先輩たちとの距離感は一気に縮まり、その後に続く良い関係が築かれた等、これと類似のコメントを複数いただいた。

ただ、80回代中盤あたりに一層激しさを増していく中で、83回(S52)では、

「カラシ塗りによる身体被害」や「(関所に置かれた)豚の頭を舐めさせられたことなどに保護者から苦情が出た」ようで、先にみた「歓迎会後の集会」結果と合わせ、学友会は改善意向を示し、「危険や度を越した内容は自粛する」ことを条件として、開催継続を決めたという。

そのようにして何とか続けられた試胆会だが、少なくとも110回(H16)頃からは相当明らかな変質が認められる。歓迎会と兼ねたり実施しないという簡略化・負担軽減に加え、その内容もそれまでの怖くてつらいメニューから、歓迎会同様、恥ずかしいテストや面接、あるいは女装やコスプレなどという、実に軟らかいものに移り変わったようだ。

それでも当人或おそらくは保護者から学校へのクレームが多くなり、遂に118回(H24)には、生徒が不登校になるという事件が発生。学友会顧問より、地方会は無期限活動停止の処分を受けるに至った。

### (3) その他の活動、地方会の意義

ほとんどの出身学校(小・中学校)が長い間地方会を形成してきた。地方会の活動は、先に見たような歓迎会や試胆会ばかりではない。それらの通過儀礼を経た後は、講座制であったクラス以上に親しい仲間として、頻度に違いはあるものの定例行事が行われる。古く48回(S17)頃は、毎日曜日にスポーツやミニ談話会を開催したようだが、多くは最寄りの公民館等で毎月あるいは隔月程度でコンパを開き、食べて飲んで歌って語り合うのが基本であった。

学校でも会によっては昼食を共にしたり、清陵祭では分担した役割を果たしたり、練習を重ねた劇や合唱を披露したりと、長きに亘り高校生活の随所に地方会が関わっていたのは紛れもない事実だ。

多くの地方会所属者からほぼ同様に、地方会は良い意味で先輩後輩関係を築き、絆を強め、先輩から後輩へ何かを伝えていたのだとの感想があった。89回生(S58)の小口さんは「地方会は古きものを後輩に伝承していく唯一のシステムであり、この制度が無ければ間違いなく消滅していくものが多いと思う」とコメントしてくれた。

しかし一方では、例えば90回(S59)の上伊那学生団のように「歓迎会コンパ～試胆会を経て、(それらは)不条理ないじめか伝統行事か」を「1年生同士でかなり徹底的に話し込んだ」「毎月1度はコンパを開き、3年生の追い出しコンパ」もやりながら「それらの意義づけに苦勞していた」という。ただし、その当人古林さんも「今では地方会の廃止を残念に感じている」。

やや異なる見方として、110回生(H16)の柳澤さんは、自分の居場所をみつけない生徒にとって地方会はその居場所となり、(生徒の)孤立化を防いでいたのではないかとコメントしている。

時代は下りH24年、先に記したように遂に地方会は無期限の活動停止となる。清陵祭で恒例の地方会仮装行列は廃止され、地方会劇も廃止された。H24年当時2年生だった117回生(H23)清水さんは、「地方会の活動停止が学友会顧問から下された後、討論会、談話会、地方会長会等を通じて約半年話し合いが行われた。地方会は存続させるべきとの意見が多かったものの、活動が清陵でのいじめ行為、として新聞を通じて社会に認知されたり、不登校生徒が出現したことへの責任を何らかの形でとるべきと考え、自らが学友会長兼地方会会長を務めている中で、実質廃止を受け入れた」という。

今、地方会に属した経験のない120回以降の生徒が「地方会の代替組織について話し合っている。(中略)いつか地方会が復活し、清陵の自治の炎が燃え上がることを信じています」とコメントしてくれた。

## 2. 【校歌】の今昔

テレビでもとりあげられるほどの特徴ある校歌。重厚な歌詞、長い2曲を必ずつなげて歌いきることが誇らしい校歌。しかしそれゆえ、覚えることが難しい校歌。そんな校歌の歌い方も、時代により少し変化したようだ。簡単にまとめてみた。

### (1) 歌うのか叫ぶのか ～注目の8番

古い48回(S17)の頃は、手拍子で、第一校歌の8番もテンポを変えることな

く、足踏みもなく歌っていた。2年後の50回(S19)の方は、第一校歌8番を「スピードをあげて」歌ったという。

戦後間もない52回(S21)・55回(S24)の方々は、「やや両足を広げ、右手に帽子を掴んで振り下ろすスタイル」「南誼会では左手の拳に右拳を打ち付けて」いたという。テンポはゆっくりで(8番はやや速く)、太鼓・手拍子・足踏みなどはなし。まるで軍歌スタイル、だ。

その頃、「悲憤慷慨調や軍国主義を連想させる歌詞について違和感をもって」いたようで、S26年の清陵新聞には「校歌制定準備委員会、が決定した」と書かれていたという。

しかし、従来の校歌は生き残った。

63回(S32)以降は、手拍子、足踏みあり、8番はテンポを上げてという歌い方が定着したようだ。

8番のテンポはその後さらに時代が下るごとに速くなってきたらしい。74回(S43)「アップテンポで」、79回(S48)には「ラップ調」との表現があり、「突然速く」なり、84回(S53)「できるだけ速く叫び」、86回(S58)「早口言葉のように」なってくる。それ以降も、最早メロディーはなく叫ぶような8番になった。

ところが、99回生(H5)の頃までは速かった8番が、その約10年後、110回(H16)には、7番までと同じテンポで歌うように先祖返り(?)し、それ以降最近までそれが続いている。

もう一つ変わったと言えば、太鼓の登場である。今回のアンケートでは、74回(S59)に初めて手拍子に合わせての太鼓が一瞬登場した。しかし、その後しばらくはまた手拍子のみになり、再び90回(S59)の回答で登場する。以降は太鼓と手拍子のスタイルで今日に至っている。近年の東京清陵会総会後の校歌でも、太鼓を叩いているのは、この最近の流れを汲んでのことであろう。

昔も今も変わらないのは重厚なる歌詞。時代とともに微妙に変化を遂げてきたのが歌うスタイル。ただ何がそのような変化を引き起こしたのかまでは、今回の調査では確かめることはできなかった。

### (2) 覚え方 ～みんな苦勞した

第一・第二と続く長い歌詞。そして特

に難しい第二校歌の歌詞。こんな校歌だから余計愛着がわくのかかもしれないが、新入生たちにとってこの歌詞を覚えるのは容易ではなかった。ましてやその意味を理解することは、至難の業であったのではない。

多くの方々が、地方会で何らかの指導を受けたと言われている。入学前に歌詞を渡され、入学あるいは歓迎会や試胆会までに必死で覚えた記憶は多くの方にあるようだ。それ以外では、1年生全員が体育館等に集められて先輩や先生から教わったり、クラブや部活で教わった方もいた。歌詞の意味指導は、時代により国語や古文の先生からなされたこともあったようだ(48回、67回、78回、113回等)。

しかし情報を並べてみたとき見えてきた大きな流れは、かつてはとにかく校歌はしっかり歌えるように覚えるべし、という指導があり、それが大切にされていたものが、100回あたり以降からは、「暗記までは求められず」「覚えることは推奨」になり、そのためか地方会の先輩にも歌える人は少なくなってきたということだ。116回(H22)の新入生は、「これといって指導はなかった」「2年の時は学校から配布されたCDで覚えた」という。トイレに歌詞が貼ってあったり、校歌の歌詞サイトを参考にし始めたのもこの頃のようなのだ。

### 3. 【談論会】の今昔

清陵の特徴の一つは旺盛な「自治の精神」だと多くの人が言う。ある人は、「清陵は大学のような高校だった」とコメントした。そんな印象を裏付けるものの一つが、「談論会」、今でいう「討論会」ではないだろうか。

#### (1) 実施機会

機会として多かったのは、入学式や卒業式といった節目の行事の後、学友会総会の後、そして清陵祭などだ。

また、学校全体に関わるテーマがあればいつでも放課後に行われた年があるかと思えば、「年1回」との情報もあった。その年の学友会長など執行部、あるいは先生方の考え方による違いもあったのだろうか。

#### (2) 内容、雰囲気、登壇状況等

内容・テーマに関する情報は少なめであったが、中には素晴らしい記憶で寄せられた情報もあった。

古く48回(S17)の頃は戦時色が強かったものの、学友会(報国会)幹部は伝統の自治を強く訴えていたという。63回(S32)の頃には原水爆禁止問題や平和問題、授業料問題などについて論ずる一方、「私の人生観」「高校生活のあり方」など、時代を超えて問われる学生らしいテーマも多かった。

中には「校長の発言内容を撤回させるための議論」というきわどいものもあったらしい(69回 S38)。

テーマ自体、あるいは発言内容を難しいと感じることもあるものの、75回(S44)では体育館に700余名が集まりすごい熱気であったといい、90回(S59)には「校則を作られる前に自らを律しようといった話が多かった」という。いかにも清陵らしい光景が展開されていたらしい。

そんな談論会だが、聴衆の反応も厳しく、シラケたり面白くない時などに発せられる「シーコール」は、変わらずに受け継がれているようだ。

テーマに関心のある生徒が自由に真面目に発言する談論会は、その根幹は受け継がれながらも、時代とともにその「場」は変質を始めたようだ。その片鱗は110回頃からは認められる。

110回生(H16)のコメントによれば、談論会での内容は自由で、社会について語る人に交じって、教師のものまねをする人や、異性に告白する人もいて、真面目に話すことは当然できるが、「全体的にバラエティー番組を楽しむような雰囲気になって」いたという。さらに114回生(H20)によれば、「我々の時代には『談論会』と『討論会』という似た名前の異なる会があり、役割が異なった」という。すなわち、「談論会」は娯楽性が強く、地方会やクラブなど各種団体のネタを楽しむ「ネタ見せ会」であり、「討論会」は学内の諸問題を議論する真面目な場であった。この頃から、かつての談論会はその性格・内容を「討論会」に引き継いだということらしい。116回生(H22)のコメントには「ネタをやる」という表

現があり、117回生(H23)からも、「『談論会』では部活の勧誘や紹介が行われ、『討論会』では討論する議題が決まっていた、話し合いがなされた」との情報を得た。

「場」の変化である。

#### (3) その意義など

談論会の意義については多くを述べる必要はないだろう。自治の精神を重んじる校風の強い学校で、生徒たちが自らの意見を表明し合い、そこで考え、切磋琢磨する。今回の企画でも、当時を振り返っての類似の感想が数多くあった。

「若いときに燃えることが大切」(64回生)、「皆が正しいと思ったことを発言することに、清陵生になったことを実感した」(69回生)、「大人になっていく時期の気負いがほとぼしっていたが、いいことを言うやつが多かった」(78回生)、「自主独立、自治の精神の育成には有意義だった」(80回生)、「正に自由の象徴であった」(83回生)、「清陵のリベラルな雰囲気を最も具現していたと思う」(89回生)。

## 4. 【金色の民】の今昔

「金色(こんじき)の民」、略して「民」。在校生、卒業生を問わず幾多の人により歌われ、踊られて(?)きた歌ではあるが、今回の企画を通じてこの歌のルーツを初めて知ることとなった。

金色の民いざやいざ

大和民族いざやいざ

戦わんかなとき来る

戦わんかなとき来る

フレーフレー清陵 フレーフレー清陵

#### (1) ルーツ ～「征露歌」～

今回情報提供をお願いした方々の中で、この歌のルーツを知る方は少なかった。応援歌であろうという情報は複数いた



昭和50年代の「金色の民」

いたものの、確たることはわからないという。

そんな中で、48回生(S17)の宮坂勝郎さんより『『金色の民』は旧制一高の寮歌『征露歌 アムール川』の20番である』、67回生(S36)小平攻さんからも「旧制一高の寮歌で日露戦争を意識して、向こうが白色人種ならこっちは(黄)金色の民だと言って戦争を鼓舞した歌」との貴重な情報をいただいた。

さっそく調べてみたところ(以下はWikipediaより)、「1904年(M37)2/11、日露戦争直後に旧制一高で行われた紀元節奉祝集会で『征露歌』(ウラルの彼方)として披露された曲」の20番の歌詞は、まさに清陵で歌い継いできた「金色の民」に一致していることがわかった。

金色(キンシヨク)の民いざやいざ  
大和民族いざやいざ  
戦はんかな時期至る  
戦はんかな時期至る  
これがその20番である。

この「征露歌」は読んで字のごとし、「日露戦争開戦に向けた学生による戦意発揚のために作成されたとみるべき歌」だという。作詞は青木得三で、「義和団の乱の中、ロシア軍がロシア領内の中国人居留地江東六十四屯を襲撃した事件を描いている」という。曲は1901年(M34)旧制一高の東寮第11回記念祭寮歌として作成披露された『アムール川の流血や』という曲と同じで、「既成の複数の軍歌を組み合わせたもの」らしい。ちなみに「金色の民」は「キンシヨクのタミ」と読み、白色人種に対して黄色人種を「金色の民」といったものだという。

他にも既知のOBはいたのかもしれないが、当番幹事にとっては大きな収穫の一つであった。

## (2) 歌う機会、歌い方・踊り方

「金色の民」はことあるごとに、いつでもどこでも行われて(歌われて)きた。例えばコンパ、清陵祭、クラスマッチ、修学旅行、運動部の対外試合後、地方会の締めなど。また学校を離れても、入学合格時、大学入試地を訪れて、同級会、結婚式等々。

しかし、そのスタイルは時代と共に変化してきた。

戦争に向けて鼓舞するというルーツ故か、古い時代には旧制松本中学等との対抗戦やクラスマッチにおいて、応援歌とともに歌われていたという。そう、58回(S27)頃までは、「金色の民」は「歌われて、いた。終戦直後には校歌と同様に、足を開き右手を振り上げ振り下ろして歌っていた。その頃の一部の記憶には手拍子をしながら歌ったものもあった。

それが、どうやら少なくとも63回(S32)頃からは、円陣を組んで飛び跳ねながらぐるぐる回るスタイルとなり、その過程でこの歌は「歌う、というより」叫ぶ、に近くなってきたらしい。

時代は下り近年になると、もう一段の変化を遂げる。110回(H16)には「最初の構えで……右足を前に出し、ぐるぐると回る」ようになる。

さらに114回生(H20)の情報には明らかな変化がみられた。「(グルグル回る)民が終わった後、そのまま天に向かって人差し指を立て、『We are Seiryō, We are Seiryō』と叫びジャンプする」。

これが現在の「民」の形だ。



現在の「民」

## 5. 【清陵祭】の今昔

高校生活の中でも、強烈な印象が残っている一つである「清陵祭」。今回今昔での大きな変化は認められなかったが、その様子を整理してみた。

### (1) 歴史 ～実施時期など

今回寄せられた最も古い情報は46回生(S15)によるが、「清陵祭」の欄はブランク。次に古い48回生(S17)の記憶では、当時清陵祭は無かったらしい。その2年後の50回生(S19)からは「我々の時代が『第二回、で夏休み前』であったとの情報をいただいた。



杉の葉アーチの制作中

一方、旧制中学の最後期にあたる52・55回生(S21・24)の方々の情報では「清陵新聞」第11号(S23年10月発行)にS23年7月に「第1回記念祭」が行われたとあった。先の情報と合わせると、この「記念祭」は「清陵祭」とはあえて区別した記念行事であったと推察されるが、断定はできない。戦後1～3年の時期でありフォークダンスはなかったが、杉の葉のアーチを作りファイヤーストームも行われており、名称は異なるもののこれらも「清陵祭」であったと考えるのが自然ではないだろうか。

実施時期はほぼ一貫して7月。ただし、古くから92回(S61)あたりまでは20日過ぎあたりが多かったようだが、少なくとも110回(H16)以降時期は早まり、7月の第一週の週末となっている。

実施期間も微妙に変化した。先の「記念祭」は土日の2日間であったが、S32年(63回)～S34年には5日間行われたという。69回(S38)情報では3日間であり、以降それが基本となったように見えるが、前夜祭の数え方が諸氏により異なっている可能性はある。84回(S53)は金曜前夜祭と土日の2日半、92回(S61)は木曜前夜祭を含めた3日半、110回(H16)はまた金曜前夜祭からの2日半となり、恐らく現在に至っているようだ。今回最も若手である118回生(H24)は「4日から3日になった」とコメントされたが、前夜祭を含めてであろう。

### (2) 企画・内容

諸氏の記憶に残っている企画はさまざまだが、硬軟の大きな流れが感じられる以外は、いずれも時代を反映した高校祭的な内容であることに変わりない。フォークダンスとファイヤーストーム以外の諸氏の思い出のイベントを少し並べてみる。

57回生(S26)今井さんは卒業生の動向調査を行い発表。58回(S27)には美術展、バイオリン演奏会やスポーツの対抗戦があった。63回生(S32)米山さんは社会部に所属され、毎年農村問題や原水爆問題につき調査して発表。それ以降も文化系のクラブでは各種の研究発表、運動部ではOBとの対抗戦、地方会やクラブでの仮装行列、80回(S49)前後から定着した感のある騎馬戦や棒倒し、映画上映会、文化講演会、合唱コンクール等々。

92回(S61)あたりから時代の流れを感じさせる軟らかい企画が目立つようになる。美女(女装)コンテスト、仮装コンテスト、カラオケ大会、地方会劇、フィーリングカップルカラオケ大会、コスプレ・カフェ、写真館、お化け屋敷等々。

もちろん一方にはクラブの発表会やスポーツの対抗戦、談論会(主にファイヤーストーム時)などもあるのだが、時流を逃すまいとするような軟らかいイベントの増加が印象的であった。

### (3) フォークダンス

現在の清陵は、男女の入学数が中学では同数、高校でもやや男子が多い程度であり、フォークダンスの実施には特段の支障はないと言える。しかし、女子生徒がいないか、あるいは全校で「20名程度」であった戦後1~3年頃は、フォークダンスはなかった。フォークダンスが清陵祭終盤の目玉イベントとして実施され始めたのは、どうやら60回(S29)を過ぎたことらしい。

63回(S32)でも「学年に女子はたっ

た5名」であり絶対的に不足していたが、諏訪二葉高校やその他の学校の生徒が参加するようになり、実施できるようになったという。それ以降、諏訪二葉高校、岡谷東高校をパートナー探しの主要ターゲットとしながら、その他の参加者も誘い合わせて、脈々と続けられてきた。中には「踊ってくれるステディな二葉生を確保することがハイステータスであった」(89回生)という明確な記憶や、「中学の同級生の妹と踊らされたり」「(今の)かみさんとずっと踊って」いたり、「委員などは(遠慮して?)男同士で踊って」いたりという、悲喜こもごもの時間であったようだ。

80回(S49)以降では事前の講習会や練習の様子もうかがえたのだが、苦勞して探したパートナーをチェンジするの可否かは重要な問題であったと思われる。その点については、複数の情報より、基本はノーチェンジであったと考えてよさそうだ。92回生(S61)からは「アンケートをとった結果ノーチェンジに決めた」との情報も得られた。ただ、最近の118回生(H24)のコメントは、「パートナーはチェンジ」であった。

フォークダンスに関する明らかな変化は、少なくとも110回(H16)以降は「他校生の参加はなくなった」ことだ。女子生徒が増加し、学内で完結できるようになったということであろう。また114回(H20)では「フォークダンスのときはすでに散水後で泥まみれで」あったという。これも小さいが変化である。

### (4) ファイヤーストームについて

ファイナレを飾るファイヤーストームは、言葉で表現された情報による限り、昔も今もそう変わってはいないようだ。知恵と体力を使って廃材を含む木材を集めて櫓を組み、クラブやら地方会やらの幟を立て、水を撒き、水を掛け合い、泥土にまみれて走り回る。傍らには消防車が控えている。櫓をステージとして談論会が行われ、やがて赤々と燃え盛る炎を見ながら、熱い祭典を振り返り、皆思い思いの感慨に浸る。多くの諸氏の胸中に、夏の日鮮烈な印象として刻まれていることがコメントからわかる。

今昔という話ではないのかもしれないが、何人かの情報から目についた点が一つ。

61回生(S30)からは「ファイヤーストーム、そこには生徒と校長をはじめ先生方と一体となって過ごした青春そのものがあつた」とコメントがあつた。64回生(S33)は、「騎馬の上で大森校長を乗せてファイヤーストームに連れ出した」。80回(S49)でも「小菅校長は開始の挨拶後も一緒に走っていたような気がする」。83回(S52)の頃も、「校長は騎馬で担がれて登場」し、生徒と一緒に泥をかぶっていた記憶がある。その後の校長の参加情報は乏しい。110回(H16)では、「校長(や教師)は参加していなかった」し、116回(H22)も「校長(教頭)は参加していないと思う」とのことであった。主役は生徒であり、ましてや自治を重んじる学校である。しかし、時代は変わったと思わざるを得ない。

(83回生 森政宏)





# 清陵女子

女性が活躍する時代、諏訪清陵高等学校においても、昨年の入学人数が男子119名、女子121名と、男女共学になってから初めて、女子が男子を上回りました。この女子生徒の増加も変化の一つではないでしょうか。活躍する清陵女子に注目し、国内外、多様な分野でご活躍中の卒業生の方々の声をお届けします。

## 諏訪清陵高校と私

### 青木瑞枝(56回生)

青木眼科理事長



昭和25年入学の56回生です。上諏訪中学出身女学生第一期、約900名の男子校に、14名合格(2名転校)であった。注目を浴びたと思う。私の入学目的は、大学受験の予定であった。明治生まれの母が、後家で苦労した為、「女の自立」「手に職」を幼少期より叩き込まれた。清陵時代は、授業内容充実、生徒の自治精神

旺盛で自由楽しく過ごした。生物の牛山正雄先生の励ましもあり医学部進学を決めた。高校時代に質実剛健、学究姿勢、好奇心を持つ等以後の生活設計、実践に欠かせない資質を体得できたと思っている。

昭和34年東京医科歯科大学卒、昭和35年同大学眼科医局入局し眼科専門医を目指した。在局6年後自宅で開業(青木眼科)をはじめた。主婦の内職(当時子育て中)のつもりが、本職となって今日に至っている。当時は「男尊女卑」、「女のくせに」のセクハラで苦労しました。育児は保育所なし、おむつの洗濯、離乳食手作りとは今では考えられない苦労がありました。

現在清陵高校同期の有志会、6部のク

ラス会が年数回ずつあり、懐かしい思い出、近況報告、時事問題など話が弾んで時の経つのを忘れる事もしばしばです。振り返ってみると苦勞の連続でしたが、仕事を続けてきたお蔭で現在は達成感のある日々を送ることが出来、様々な人との交流があり、充実した人生を送れていると感じています。

クラスメート林正孝医師のご尽力により約20年間に比国レイテ島の医学生に奨学金援助ができた14名の医師が誕生できた事も清陵高校のおかげである。

男女雇用均等、男女共同参画の現在、女性の更なる飛躍できる環境で頑張りたいと思います。

## 先輩方から引き継がれてきた諏訪清陵高校の空気を感じて

### 守矢早苗(67回生)

元小学校校長・守矢神長家第78代当主



昭和36年入学の私の学年は6クラスの中に1名~2名の女子が入っていました。入学後の事始めの一つは校歌指導でした。当初は、全部が理解できたわけではありませんでしたが、徐々に先輩方と同様の歌い方を身に着けていけたように思います。第一校歌の作詞者である伊藤長七は、春夏秋冬の風景や諏訪の歴史性、さらに日本国にとどまらず、世界に目を向ける

よう誘い、「やがて咲くべき春やいつ」と歌い上げています。その意を受け、かの諏訪郡歌の作曲者でもある田村幾作は力強く歌える曲に仕上げられています。第二校歌は、短調の荘重な曲で格調高い内容になっていて、歌えることに喜びを感じたものです。こうして清陵魂が植え込まれるから不思議です。「理想の花の咲かんまで」の言葉は、大事な場面で折に触れ使われていました。

二つ目は、学友会主催の「談論会」です。その都度、テーマが呈示されたのですが、次つぎに意見が出されます。常に問題意識がなければそこに入ることにはできません。後に教育の道を辿った私は、「論ずるとは自らの考えを構築し、筋道を立てて述べること」と気付くこととなります。論を張って自らの考えを述

べる姿は、清陵の伝統「自反而縮雖千萬人吾往矣」の気概そのものでした。

内向的であった私にとって有難かったのは、いろいろな研究室で、結構勝手なふるまいをさせていただけたことです。先生方が個々の学生にきめ細かく温かなまなざしを向けていたのおかげであると感謝しています。「文房具売り場」の店番をしたことも、人との会話や対応があまり得意ではない私にはよい訓練の場と考えて配慮してくださったのかと今懐かしく思い出されます。

今日の私がこうして在るのは、生徒の自主性を尊重しつつ、より良い方向に適切な示唆を与えていただいた清陵高校時代を経験できたからと断言できます。「学校生活を良くするも悪くするも自己の努力次第である」ということです。



## 【第50回記念総会 基調講演パネリスト】

## 音楽を通じて時代に寄り添う～初期衝動を忘れない!!

## 中山千恵子(83回生)

株式会社Chinet 代表取締役



茨城大学理学部卒。株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント在籍中からL'Arc-en-Ciel、ゴスペラーズ、VAMPS、CHEMISTRY等の音楽制作を手がける。「日経ウーマン」2002年ウーマン・オブ・ザ・イヤー 第6位。

## &lt;1970年代&gt;

四方を山に囲まれた諏訪で過ごした清陵時代、勉強をしながら聞いていたラジオから流れる洋楽。そのサウンドが世界に対する好奇心を募らせ、そして心を宇宙に解き放ってくれました。アメリカ、イギリス、フランス、スウェーデンetc……勢いある世界のヒットチャートを身近に感じ、近づきたいと思うもののその術を知らず、大学へ進学しました。

## みんな大好きだよ!

## 中村美穂(83回生)

自然科学映像プロデューサー



国語の教室の窓から見えた桜をいつも思い出す。3年の春、この眺めは今年限りと思っただけで、たまたまなかった。何度引越してもファイヤーストームで着たTシャツが捨てられない。あのとき泥の中で、なぜかたくなに膝を抱えていたんだろう。徹夜で締め切りに追われるとき、受け入れがたい「直し」を拒否できないとき、ふと目の奥で民がまわる。それは

## &lt;1980年代&gt;

大学では生物学を専攻しましたが、就職活動を開始する頃、世界の音楽はMTV(ミュージックビデオチャンネル)時代に突入。映像を見ながら音楽を聞く事が主流になりつつありました。「素晴らしい洋楽を日本に広めたい」という思いを止める事が出来ず、就職先はレコード会社を希望しました。が、男女雇用機会均等法成立前だったため敢えなく断念。4年後の'88年にアルバイトから中途採用というルートで、ソニー・ミュージック洋楽部に入社。憧れが現実へと変わったのでした。

## &lt;1990年代&gt;

アナログレコード～CDにメディアが移行し終わった頃の'94年、洋楽を日本型マーケティングで広める事から、日本人アーティストの音楽制作にシフトチェンジ。L'Arc-en-Cielとゴスペラーズに出会います。女性の制作者はほとんどいない環境の中、日本の音楽業界が絶頂期を迎える追い風に乗って、L'Arcはミリオンセールスを連発しました。

## &lt;2000年代&gt;

ゴスペラーズもミリオンセールスを記録。ヒットチャートに楽曲を送り込むという使命のもと、沢山のアーティストと向き合い、唯一無二のサウンドと存在を追求し続けて駆け抜けました。

## &lt;2010年代&gt;

CD～デジタル配信にメディアが移行した今日この頃、情報過多の煽りを受けて音楽産業も大きく変動しています。

多感な10代の頃の初期衝動が、仕事になり作品になり、また誰かの初期衝動に繋がっていく。これからも音楽を通じて、時代に寄り添って生きていきたいです。



ゴスペラーズ

ど好きだったんだ、清陵。

大学で人類進化論を専攻した。テレビ局の面接で「人間は50年もすれば滅びる」と言い放って自分が滅んだ。おかげで社員二人の独立プロに拾われ、好きな自然科学映像だけを作ってきた。縁あって大学で教えるようになり、平成生まれに「なぜそんな(手間ばかりかかって儲からない)仕事を選んだんですか」と聞かれ、あれ? 何だっけ。とっさにウシマサの顔が浮かんだ。1年の時、生物と地学を習った。「プレートテクトニクスについて記せ」とだけ問われた地学のテスト。あの答案用紙を見た時の嬉しさが忘れられない。思えばあれが、運のツキ。

地球のいろんな環境に行き、ヒトも含めたいろんな生きものとかかわり、煮え湯を飲まされたり、命を救われたりする。

素敵なお仕事ですねと言われるれば「3Kどころじゃなく最近8Kです」とまぜ返し、大変ですねと言われるれば「好きでやっているの」とうそぶく。どっちもホント。もちろん悔いはなく、倒れるまでやめる気がなく、でも、安易に後輩に勧めはしない。「好き」を仕事にすると苦しい。でもたまらなく楽しい。「好き」はたぶん、諏訪の空から降ってきた。



ギニアの野生チンパンジー

## 友人と同志に恵まれて

亘理美代子(旧姓 矢澤)(63回生) 専業主婦



昭和20年3月空き家になっていた中洲の父の祖父宅へ疎開。当時府立五中(現都立小石川高校)の教師をしていた父が、清陵高校で世界史を教えるようになったのは、その年の7月からである。

3歳であった私に戦争の記憶はないが、村の学校で「標準語を使う疎開児は生意

気だ、先生の最良だ」などやや居心地の悪い思いをしたので、高校は清陵を選んだ。同学年女子は5人(卒業時は3人)だったが、先生方も級友も自然体で接して下さり、自由で楽しい時を過ごせた。ただ、父(矢澤克)の授業を受けなくてはならないのは正直辛かった。文系進学コースで女子1人となり、体育は卓球とテニスのみ「それで普通の成績もらうなんて甘いよなあ」と級友にほやかされたが、諏訪湖でボートを経験したり、一周マラソンには二回参加して完走した。

大学は一転女性ばかり、良き友を得た寮生活が思い出深い。雑誌編集部で三年

余働き寿退社、子供達が中高生の頃は夫が長く単身赴任、同窓会や大学教授の姑の手伝いなどもしたが、平凡な専業主婦として今に至っている。

清陵出てからはや五十年以上、異性を意識することなしに、仲間・同志としての友人知人が多い幸福を感じている。孤独を恐れず群れず媚びずを目指してきたつमोरの「可愛くないミヨちゃん」も七十歳をすぎ、惚け防止になればと短歌や日本画を趣味にしているが、健康で穏やかに老いてゆきたいと願っている。

## 私 帰る

山口千恵(83回生)「創作工房山口」スタッフ



わたしがいた頃はクラスに女子がわずか5人。体育で男女混合の柔道の授業があり、しっかり寝技もやりました。入学当時、女子なのになぜ清陵にきたのか?と何人にも聞かれ辟易。女子を売り物にしないため、わざわざ汚い格好をして肩掛けカバンをはずにかけて登校したのをよく覚えています。こんな田舎を出たくて早大に入学。前に前にと気持ちの向い

ていたので、清陵を思い出すこともなく就職、結婚、出産。現在宮崎に暮らしていて、次女の年の分(21歳)諏訪に帰っていません。諏訪は遠い、そして清陵はもっと遠い存在でした。

ところが革人形作家の夫の手伝いをしながら、自宅で学習教室を開いて14年。清陵を思い出す機会が増えました。自分の子3人が大学受験を迎えたとき、お母さんはどんなだった?と聞かれたり、生徒たちの進路相談をするときに、自分の体験を具体的に話すことが増えたからです。当時の担任だった三石先生、五味先生に言われたこと、食ってかかって言い返したこと(先生すみませんでした)、模試で男子なのに「白百合女子大」と志

望の欄に書いて、全国1位をとったと自慢していた〇君たち、共通一次2期目で消しゴムのかすをよく払う練習があったこと……。清陵時代はまさに宝物だったのだと、今になってやっと気付きました。今年の4月に3人目の子どもが大学に入り、子育てがひと段落しました。次の灯りを探すにあたって、今年こそ諏訪に帰り清陵の仲間と会い、原点に立ってみたいと思っています。これから夫の革人形を多くの人に見てもらいたい、という夢に向かいます。清陵生だったわたしはきっとできます。自反而縮雖千萬人吾往矣。この言葉がわたしを支えています。

## 女性が活躍できる社会へ……清陵魂を持った私の活動

高木希奈(99回生) 精神科医



こんにちは! 99回生の高木希奈です。私は大岡谷親友会(岡谷北部中)所属、中学時代に大流行したスラムダンクの影響で、男子バスケットボール部のマネージャーになりました。私の両親は医者ではありませんでしたが、小さい頃からの親のマインドコントロールにより(笑)

中学の頃から医者になりたい、と思っていました。そんな中、母が高3の夏休みにガンで亡くなりました。それで、ますます医者になりたい!という思いが強まったのです。そして、そんな思いを汲んでくださった当時の担任の三井先生のおかげで、医大の推薦枠を取ることができました。これは、勉強だけでなく部活に力を入れていたことや、清陵祭の時にいろいろと係をやっていたりしたことが良かったのだと思います。聖マリアンナ医科大卒業後、現在は精神科の病院に勤務しています。そして、医者傍ら、作家、タレントとしてテレビ、ラジオ、雑誌等でも活動しています。

こうして忙しい日々を送っていますが、医者の中では変わった活動をしているあたり、清陵生っぽいなーとつくづく感じます。高校を卒業してからもう20年、今でも同窓生とは仲良く、先輩方からいろいろな折に連絡をいただき、こんなに何度もイベントがあり、先輩後輩と密接につながっている高校は他にないと思います。諏訪清陵高校は日本一素晴らしい高校だと思っていますし、清陵出身ということに誇りを持っています。そしていつか母校で清陵祭等の講師として講演をしたい!と心から願っております(笑)。公式ブログ

<http://ameblo.jp/ishi-kekonn/>

## Matcha(抹茶)で広がる世界

西尾 泰子(99回生)

(株)利休ジャパン 代表取締役



現在、私が輸出した抹茶が世界約20か国以上で販売されています。

高校時代から国際的な仕事がしたいという希望を持っていたため、大学時代には国際法を学びながら、色々な国を半年間一人旅しました。コーヒー生豆や紅茶の直輸入やODA政府開発援助をする会社で勤め、常に海外と接する選択をして

きました。そして、あるご縁から海外の茶類をメインにした会社を起業。その直後に東日本大震災が起きました。

世界中で日本茶輸入規制強化がされ、多くが輸出に消極的になっていく中、もっと日本に貢献出来る仕事をしなくては！という思いに駆られ、それまでに培った「貿易と茶類の知識、海外ネットワーク」を武器に、積極的に日本茶輸出に力を入れることを決めました。

あえて「Matcha」に焦点を当てたのは、伝統的な茶道作法・外国人の嗜好に合わせたレシピが出来る魅力・栄養価など、訴求要素が沢山あり海外の方に分かりやすく、世界に出ればきっと抹茶は進化する！と可能性を信じたからです。

「小舟で大海原に独り漕ぎ出す妻」と

夫に激励してもらいながら、スーツケースにサンプルを詰め込んで頻りに海外に赴き、飲んで食べて呑んで踊ってスポーツ観戦。世界中に抹茶仲間を増やし、種を撒き続けました。気づけば最近の海外での抹茶ブームを追風に、各国の嗜好に合わせた抹茶ビジネスを営めるようになりました。また逆風の中、積極的に動き回っていたことから、小規模で新参者ながら抹茶生産者からの強い信頼も得ることが出来、優先的に安定供給を頂けているという有難い状況に至りました。

そう。私が「抹茶で広がる世界」に漕ぎ出したのは『自反而縮雖千萬人吾往矣』『理想の花の咲かむまで』清陵魂のお陰なのです。

## 自由で寛容な校風の中で

間宮 薫(107回生)

三菱東京UFJ銀行 シドニー支店 支店長代理



107回生(茅野北部中、吹奏楽部所属)の間宮と申します。この度、清陵の先輩であり勤務先の先輩に、「女性の活躍」をテーマに一言書くという貴重な機会を頂きまして、大変光栄に思っております。

現在、三菱東京UFJ銀行シドニー支店で、当地地場企業のお客様への融資、貿易金融の推進に携わっております。日

本とは違う商習慣・文化、英語でのコミュニケーションの中で難しさを感じることも多くありますが、「海外にかかわる仕事がしたい」と入行当時より希望していた念願のポジションでもあり、試行錯誤と努力の毎日です。

「海外と関わる仕事がしたい」と思い始めたのは、中学生の頃でした。授業でネイティブの先生に褒められたことで、単純にも「自分には語学が向いている」と思い込み、英語が好きになったことがきっかけです。清陵では部活の先輩が留学を経験していて、「先輩のように自分も留学してみたい」と1年間米国に留学しました。留学を後押ししてくれ、かつ帰国後留年した私を受け入れてくれた、自由で寛容な清陵の校風の中で、思い切

り好きな分野を伸ばしていくことができたと幸運に思います。

その後は、東京外国語大学でスペイン語と英語通訳を専攻しました。就職活動の際も、日本と海外をつなぐような仕事をしたいと、「海外にかかわるチャンスが多い企業」という点を重視しました。金融危機直後で就活環境が厳しい中、とにかく多くの就職試験を受ける人もいましたが、その点だけは譲りませんでした。その点は、やはり清陵で培った精神が生きているのかもしれませんが。そのおかげで、今の私があると思います。これからも、質実剛健、勤勉努力、の姿勢で頑張っていきます。

### 東京清陵会 新生女子部が発足

第1回の女子会が開催されました(詳細は19ページ)。

Facebookページも開設。女子部への多数のご参加をお待ちしております。

幹事 88回生 佐藤美智子

Facebook/ 東京清陵女子会で検索Go!

東京清陵女子会

検索

Mail / tokyoseiryokaijoshi@gmail.com



Topics

## 高校時代の自分へ



現在私は三重県津市の田舎で有機農家になり、時々自宅の改装をしながら、夫と一緒にいろいろな野菜づくりをしています。これからほちほちと花畑を増やし、将来は通信販売でオーガニックフラワーを扱う農家になりたいです。THE BLUE HEARTSの「夢」という歌を知っていますか？ 私はこれまで随分ウロウロしたけれど、今ではこの歌の歌詞みた

いに「あれもしたい、これもしたい、もっとしたい、もっともっとしたい」とやりたいことをして、夢が少しずつ叶う毎日を夢見心地で過ごしています。

清陵に在学していた当時、私はガリ勉強でした。勉強が好きというより、勉強ができないことが嫌でした。部活は陸上部で、全く冴えない長距離選手でした。部活で活躍するほうが成績優秀でいることより難しかったので、自分は勉強もできなければ存在価値が無い、みたいな切迫感がありました。部活して帰ってできるだけたくさん勉強しよく寝る、の繰り返しで、青春時代としては非常に味気ない生活だったかもしれません。

「自反而縮雖千萬人吾往矣」の意味が

## 小口昌子(108回生) 農業

わかったのは、京都大学に進学して、自分の道を極めていく途中にいる、「ちょっと変わった」友達や先輩たちに会ってからでした。身近な人や、世間一般の期待を察知して、それに沿う努力をするのは正しそうで安全そうではあるけど、余りにも大変で安っぽいうえ面白くない。一風変わっていても安全そうじゃなくても、自分の好きなこと、信じることに突っ込んで行く人生のほうが面白そうだ！ という胸の内にやっと気づきました。

もし清陵時代の自分に会えるなら、勉強や部活なんてどうでもいいから、得意なこと、知りたいこと、行きたい場所、会いたい人に出会って、自分なりの考え方に気づき深めて欲しいと言いたいです。

## 「好き!」と「かっこいい!」を貫いて



こんにちは。114回生の大内春菜と申します。昨年東京を離れて以来東京清陵会からはすっかり遠のいていたので、お話を頂いて嬉しく思います。

少し自己紹介を…岡谷東部中出身、清陵在学中は剣道部等に所属し、副学友会長もやらせて頂きました。現在はJR西日本に就職し、金沢で働いております。住みよく、日本酒と海鮮が美味しくくて最

高ですよ。

さて女性の活躍ということですが、清陵時代はS講座(理数系に力を入れるクラス)、大学は工学部機械系、現在は現場経験で車両所…と女性が極少のコミュニティにずぶずぶ足を踏み入れている者として、自身の進路選択の際考えたことをご紹介します。基本的に「好き!かっこいい!」で進路選択していたので、初めて真面目に将来を考えたのは就職活動時です。志望業界は転勤もあるし、かと言って自由に転勤もしづらいし…どんな相手と結婚、出産しても続け易い職業を選ぶべきかな…と悩んだのですが、独身のままその仕事を続ける可能性を考えたらゾッと、結婚したらまた考えようと

## 大内春菜(114回生) JR西日本勤務

結局ここでも興味で職業を選んだのでした。社会人になり24歳という色々とりアナルな年齢にはなりましたが、とりあえず今は楽しくお仕事しています。もちろん女性活躍推進法も制定されましたし、様々な企業、様々な仕事と家庭の両立のやり方があると思いますので、現在就活中の院生同期、また大学生の方々、いっぱい将来を考えてください!私も活躍する女性として胸を張れるよう日々精進したいと思います。

ちなみに執筆中の現在は週末に下社里曳きを控えており私も帰省する予定です。地元を離れて初めての御柱ですがつい帰りたくなるものですね。

ご寄稿くださいました皆さま、ありがとうございました。

旧制諏訪中学・諏訪清陵高校の変遷は、かなりの部分が社会の変容に伴うものだと思います。その意味では、それは戦前から今に至る日本の教育やその環境の移り変わり、社会の変革、それらを諏訪清陵高校という鏡に映し出したもの、といえるのではないのでしょうか。と同時に、清陵固有の要因による変化もあったことでしょう。

これからも、時の流れとともに諏訪清陵高校は変わり続けていくでしょうが、変わって欲しくないものといえば、それはやはり、

「自反而縮雖千萬人吾往矣」の精神なのではないでしょうか。名物教師でいらした「うしまさ」こと故牛山正雄先生は、「自反而縮雖千萬人吾往矣は自反而縮が難しい」とおっしゃっていましたが、変わりゆく時代だからこそ、大切にしなければならぬ伝統だと思います。そんなことを伝えてくれる、私の好きな詩がありますので、その一部を紹介してこの特集のまとめとします。

茨木のり子の「問い」。詩の中で繰り返される「ゆっくり考えてみなければ」。「自反而縮」に相通じるところがあるように思えるのです。(83回生 倉田重子)

### 問い

ゆっくり考えてみなければ

いったい何をしているのだろう

わたくしは

(中略)

ゆっくり考えてみなければ

みんなもひとしなみに

何かに化かされているようで

いちどゆっくり考えてみなければ

思い思いし半世紀は過ぎ去り行き

青春の問いは昔日のまま

更に研ぎだされて 青く光る

(茨木のり子「おんなのことば」童話屋刊収録「問い」より)

## 同期会活動紹介「まだまだ集まっている」 63回生

63回生の我々は、今年から後期高齢者と呼ばれることになるが、まだまだ元気に集まっている。

昨年11月11日アルカディア市ヶ谷での同期会(63会)には、諏訪からの参加者を含めて例年よりは少なかったものの53名が参加した。いつものように清陵時代を懐かしんで話が弾み、各人の近況報告での、趣味、健康、ボランティア活動等の話に感嘆したり、刺激を受けたり癒されたりするのもいつものことだ。この歳になっての同窓会は、集まり顔を合わせるだけでも意義があるという63会の面々は、互いに元気を確認し合い適量のお酒と談笑の充実した時間だった。



まず、集まってみた。丸の内の居酒屋で(平成5年2月)

集まる切っ掛けは、当番幹事が近づいた平成5年、東京清陵会幹事会への欠席が続く63回生を心配した当時の事務局長から声かけがあり、先ず集まってみた。

少人数での集まりはあったものの、広く関東地区の仲間への声かけは初めて。卒業以来の顔合わせの人もあつたりして30名近い仲間が丸の内のビル地下居酒屋に集まった。直ぐに清陵時代に戻ったように会話が弾み、互いに卒業後の近況を語り合った。「よし、当番はしっかりやろうぜ」とその気になった。その後も度々集まり新しい出会いを重ねた。

当番幹事の1年前、各クラスから幹事を出して準備会を立ち上げ、T君の勤務するゼネコンの赤坂にある社員サロンに毎月集った。以来、連絡や行事の役割を各クラスが分担して行ったことがクラスがまとまり行事への出席者増につながった。



アルカディア市ヶ谷での63会(平成27年11月)

当番幹事の平成8年、第30回記念総会には同期70名余が集まり総会を盛り上げた。また、幹事の前・後年とも50名余が出席し、平成7年より3年間続いた300名を超えた総会に貢献できた。それ以降20人を超えることもあったが最近では十数人と減ってきたが、当番幹事を除くとまだ多い学年だと思う。総会では同期との歓談はもちろんのこと他学年との出会いも楽しみにしている。

清陵高校入学50周年を機会に再び



東京清陵会総会の63回生(アルカディア市ヶ谷 平成26年10月)

を掛け合い、卒業50周年、古希の会等の学年会を毎年諏訪と東京で交互に開催しており毎回60人から70人前後の出席者がいる。今年は、御柱祭の年に当たるため中止することにしたが、次回は喜寿を記念して東京と諏訪の中間地あたりで集まることを考えている。

ここ数年、牛正が担当したクラス会(三三会)に他クラスの仲間も加わり、年3~4回有楽町にある成城学園卒業生のクラブに集っている。夕方早めの時間帯から集い、特にテーマは決めていないが、そこは清陵OB、母校や諏訪の話題、近時の話題が飛び交い、談論風発、ほろ酔い酒と歓談のひと時を楽しんでいる。

集いを重ねるなかで、各人が培ってきた知識・特技・知恵を仲間の仕事や講演会などで活かしたことも同期同窓会の魅力と言える。(63回生 藤森宏一)



成城クラブでの三三会(平成28年3月)



# 「企業で・部活で」

昨年は大学清陵会として「早稲田大学学生諏訪会」、職場清陵会として「三菱東京UFJ銀行」を紹介したが、今年も、企業として「KDDI」、部活OB会として「剣道部」の「清陵会」の報告していただいた。

## 【KDDI清陵同窓会】

当社には両角代表取締役副社長（78回生）から、入社4年目（109回生）の若手まで、幅広い年齢層の同窓生が10名います。出会いは、「社外の同窓生を介して同じ会社であることがわかった」、「合併したら同級生がいた」という偶然もあれば、「名字が諏訪っほいから聞いてみたら清陵だった」という能動的なアプローチもあり、様々でした。

そんな10名で、毎年11月に、懇親会を開催しています。所属が、管理、技術、システム、営業企画、営業、調査・研究部門と、多岐に渡っていることから、社内の話題はとても有益なのですが、各自の清陵時代のこと、諏訪情報の交換もあり、毎年楽しい時間を過ごしています。

副社長との懇親は、当初、若手社員にとっては緊張の場でしたが、回を重ねるごとに親しさが増し、今では和気あいあいとしています。写真は今回、この会報に掲載するために、昼休みに集まって撮影しましたが、（事業所が異なったり、業務の都合で、残念ながらフルメンバーとはなりませんでしたが。）撮影後も、つい、御柱の話に花が咲いてしまいました。

さて、今年も、もうすぐ新入社員が配属される時期になりますが、新メンバーが現れるか

楽しみです。できれば女性メンバーがほしいと切に願っております。

（90回生 猪股美智）



## 【剣道部OB会】

私が本校教頭を務めていた平成23年1月に78回～80回の7名で発足。その後、お盆前の開催にあらため毎年開催。平成26年に私が校長として本校に戻ったことをきっかけに上は75回生まで拡大。これに私の教頭時代の在校生であった現役大学生も加わり、顔を知らない者どうしが剣道部に籍を置いた縁だけで集い交歓する本当の意味のOB会となった。現在も、前後の代に少しずつ声を掛けながら名簿登載者数を増やしているところである。

教頭であった私が行きがかり上最初の幹事を務めたが、後輩が引き継いでくれ

る気配がないため校長となった今も私が万年幹事状態。

目下の夢は、卒業後も続けている者どうしは本気で、すっかり御無沙汰の者は怪我のないように気をつけながら、久しぶりに竹刀を合わせ剣道そのものを通じての交流が出来るかというもの。一汗かいた後のビールは最高でしょう。

今年の集りは、8月13日（土）18時より、上諏訪駅前で行われま

した。加入に関するご照会は、母校校長まで。

（78回生 石城正志）



- 上質な真澄を最適な状態でお客様へ ●真澄でお客様の食卓を和やかに
- 人と街に優しい酒蔵に ●日本酒を世界酒へ

1662（寛文2）年の創業から350年あまり。真澄は昨年より一年分背筋を伸ばして四つの夢の実現に励みます。皆様の益々のご健勝をお祈りいたしますと共に、真澄蔵元に倍旧のご支援を賜りますようお願いよりお願い申し上げます。

[www.masumi.co.jp](http://www.masumi.co.jp)  
[www.facebook.com/sakemasumi](https://www.facebook.com/sakemasumi)



信州が生んだ天下の銘酒  
七号酵母発祥の酒蔵  
**宮坂醸造株式会社**  
〒392-8686 長野県諏訪市元町1-16  
TEL.0266-52-6161 FAX.0266-53-4477

## 学年会 通信

# 「集まれ、我等が同期」

## 同期会が同窓会の原点、毎年継続開催を!

昨年の「東京清陵会だより」の企画で好評だった「学年会通信」! 今年も、継続企画として、いくつかの学年にお願いしました。内容的には、学年の特徴、最近の会合、会合予定案内、東京総会参加呼びかけ、同期会のSNS利用、幹事名、連絡先などですが、これからの同期会活性化につなげていただけたら幸いです!!

●59回生の首都圏在住者の内、65名が(入れ替わりはありますが)常連で、観桜会のあと、同期生の金子政喜君のお店(門前仲町)で懇親を深めています。北海道や大阪、諏訪の仲間も参加し、本年度で44回目を数えました。地元諏訪では、偶数月14日(曜日問わず固定)午後6時頃に、馴染みの居酒屋に有志が三々五々集い歓談しており、首都圏から駆けつける人もいます。問合せ先: 東京地区の幹事は五味隆君、諏訪の幹事は牛山孝君です。(59回生 矢崎悦郎)

●我々76回生は、7年前の当番幹事を務めたあと、東京地区では毎月第3金曜日に、三金会と称して交流を続けて来ました。最近では年齢的にも定年後継続雇用をしている者も増え、スケジュールが合わず参加人数が減少傾向ですが、時間ができた時に昔話に興じることができる場を作っておきたいと考え継続しています。関西在住のメンバーも東京からの出張者があると、連絡を取り合い集まっていますし、諏訪では毎年お盆の帰省時8/14に合同同窓会として交流を続けています。76回生 HP <http://www.2.plala.or.jp/yellowcard/index.html>

(76回生 関屋孝行)

●78回生は5年前に幹事を務めさせて頂いて以来、たびたび親交を深めています。特にこの2年間は、78回生の石城正志君が清陵の現校長となって母校を支えてくれます。東京清陵会にも無論出席してくれるので、昨年同様、2次会として「現校長と清陵の過去と未来を語る会」を催します。世代を超えて97回生女子数名も一緒に盛り上がる予定です。78回生は10月2日(日)ぜひご参加ください!(78回生 伊藤高光)

●82回生は昨年の当番幹事でした。ご協力ありがとうございました。その後、82回生同期は東京では江戸東京散歩倶楽部を設立、臨番で幹事を務め、隔月くらいに各自の住域などを散歩、宴会をしています。今年も1月に浅草千住、4月に早稲田高田馬場、9月には谷根千、その後も品川大森、練馬板橋と企画しています。また諏訪地元同期とは6月本部総会二次会、年末の忘年会を計画しています。これまで忙しくて参加できなかった同期も是非参加ください。

(82回生 北原譲)

●83回生は、同期会の名前を「祥雲会」と言い、卒業以来これまで割と定期的に全体の同期会を開催してきました。そして、いよいよ今年と同窓会の当番幹事学年となりました。諏訪の本部では6月25日(土)に上諏訪の「ホテル紅や」に於いて、平成28年度定期総会、パネルディスカッション、懇親会が開催され、全体では約350人、当番幹事学年の83回生も40人以上参加し大いに盛り上がりました。記念に作成したポロシャツ・ネクタイも好評でした。東京でも、10月2日(日)の総会・懇親会に向けて、当番幹事学年として、精一杯頑張っ準備して参りますので、どうぞ宜しくお願いします。(83回生 岡本徹)

●新年会25名、3月の『ミドル交流会』には15名が参加。6月の本部総会・懇親会にも7名の84回生が諏訪に駆けつけてくれました。この会報をお読みの84回生の中で、東京清陵会の行事にまだ参加されていない皆さん、下記連絡先にメールをお送りください。来年はついに我々が幹事です。40年前に偶然出会った仲間と、この機会に再び巡り会って、もう一度だけ1年限りの清陵生に戻ってみませんか。連絡先 [toshakahane@gmail.com](mailto:toshakahane@gmail.com) (84回生 赤羽俊昭)

●89回生はこの4年間、毎年、全体同期会を開催してきました。東京で3回、諏訪で1回行い、大勢の同期が参加しました。また、Facebookでも、多くの同期が交流しています。89回生のグループも設置されており、連絡に活用されています。……蛇足ですが、Facebookは世の中を変えた偉大な発明の一つですね。これがなければ、清陵出てから30年の我々が今のように簡単に距離を縮め合うことはできなかったでしょう。

(89回生 金子哲哉)

●東京の久燦会(93回生)の皆さん、今年御柱祭の年ですので、諏訪は沸き立っています。秋はそれぞれ小宮の御柱祭になりますね。さて、93回生は今年度サブ幹事です。10年後に当番幹事として定期総会や同窓会報等の仕事をすることになります。足がかりとして、同期で集まって親交を深められればと思っています。連絡先やメールアドレスが変わってしまい、連絡を取れない方がいますので、今年度になってから吉

川からメールが一通も届いていない方は、メールをください。連絡先 [yskwgo@yahoo.co.jp](mailto:yskwgo@yahoo.co.jp) (93回生 吉川豪)

●99回生学年幹事の荒木です。99回生は、今年卒業20周年を迎えるにあたり、初の同窓会を開催いたします。9月18日(日)18:00~ 諏訪のベルファインにて、恩師の先生方もお招きし、盛大に開催いたします。100名以上の参加を目指していますので、是非お越しください。フェイスブックでは、99回生のグループページ「自反而縮。雖千万人。吾往矣。」を展開中、100名近い同窓生が既に登録済みですので、FBユーザーは是非登録をお願いします。

(99回生 荒木健太郎)

●110回生は、同窓会名を金色会と称して活動しています。会名は、同窓生が心から愛する「金色の民」からとらせていただき、第一回目の同窓会で同窓生の承認を得ました。昭和最後、平成最初の世代であることから、これからの日本を担う旗手として活躍していこうという気概を現した会名です。110回生は、来年で卒業10周年を迎えます。それを祝して、年末年始に第6回金色会を開催いたします。詳細は決まり次第、Facebookにて掲載しますので、同窓生は参加をお願いします。また、SNSに参加していない方も私(柳澤広識)にメールいただければ、詳細をお伝えします。東京で活躍している同窓生も多いので、東京金色会と称して、諏訪ではなく東京でも同窓会を開催したいとも考えております。その際も、ご協力のほどよろしく申し上げます。連絡先 [yanagisawahironori@gmail.com](mailto:yanagisawahironori@gmail.com)

(110回生 柳澤広識)

●118回生の特徴はプライベートが充実しすぎて東京清陵会に参加する人があまり多くないことです。これまで会合の開催はありません、また現時点での会合の予定もありません。ですが、東京清陵会の総会にはできるだけ多くの人に参加してもらいたいと思っています。現在、SNSのグループには51名が参加しております。118回の幹事は帯川恵輔、五味梨香、茅野理子、塚原義臯の4名です。諸連絡は [sejinja@gmail.com](mailto:sejinja@gmail.com) (代表:帯川) までよろしく申し上げます。(118回生 帯川恵輔)

## 2015年度 総会当日ライブ

# 母校創立120周年記念 東京清陵会総会を振り返って

昨年の総会は母校創立120周年記念でもあり、10数年ぶりの休日開催、80歳以上無料招待を始め、新しい企画を盛り込みました。ここに再現ライブを掲載させていただくとともに当番幹事の裏話を披露させていただくことで同窓生諸氏に御礼を申し上げます。

(82回生・当番幹事一同)

## 「諏訪⇔東京清陵会総会 バスチャーターの記」

6月の全体総会で幹事を務めた私たち82回生が中心となり、全体総会で多大な協力をいただいた東京清陵会の総会に、諏訪地域からバスをチャーターして応援参加することになりました。当日は、柿木観光に依頼し、82回生7人、83回生3人、そして52回生6人と石城校長先生も乗せて17名が東京へ向かいました。52回生の指示により乗車場所も指定され(大変慣れたものでした……)、当日、急遽1名不参加となってしまいました。事前に真澄と神渡から振舞用と我々用の酒もいただき、ちょっとだけ?飲みながらいざ東京へ!何とか無事に参加することができました。総会では、一緒に行った82回生武藤君のリコーダーに癒され、質の高いパネルディスカッションに東京を実感、終了後のそれぞれの交流会も十分堪能し、充実した1日となりました。帰りは、予定にはなかった下諏訪まで足を延ばしていただき、大変助かりました。

(82回生 木島清彦)

## 「本部パネルに参加して」

まずは、多くの方々のご出席され、パネル会場の熱気に驚きでした。又、相槌を打つ仕草を見るにつけ、諏訪の地で育ち教育を受けた者としての一体感を感じました。

パネル当日まで、パネリストのお考えを伺い、又、4人で身近な話題を話す機会を有しました。皆様が広範囲の事項へ高い関心を持たれている事に接し学ぶ事大でした。その一端が、今回のパネルに表現されていたように感じています。更に、地元への感謝の気持ちは共通なものと思った次第です。ともすると、日々の

些事に押し流されて、独りよがりな考えに陥りやすいものです。我々の繋がりは、時に優しく、時に厳しく導いてくれます。これからも、この繋がりを大切に参ります。

(82回生 黒田茂)

## 「地酒コーナー」

日本酒の製造に欠かせない原料といえは米と水。多くの人はどういった品種の米を使っているか、精米歩合(米の磨き具合の指標)はどれほどかといったことに気を遣いますが、水の性質が最終的な酒の味に大きく影響を及ぼしていることはなかなか知られていません。清陵の名前の由来である地名【清水ヶ丘】はまさに清らかな水の郷。良質な水を求めて諏訪に5軒もの酒蔵が密集している理由は、とりわけ霧ヶ峰から流れるこの水にあるのです。諏訪の地だからこそ生まれる味わいを大切に、皆様に楽しんでいただけるよう、今年の造りも例年以上に力を込めて頑張ります。

(107回生 真澄・蔵元・宮坂 勝彦)

## 「夫婦司会」

120周年記念にちなんで初の夫婦司会をやらないかと持ちかけられ、幹事の献身的な頑張りに感動してつい引き受けてしまった。緊張して当日を迎えたが、パネルディスカッションで大先輩方の素晴らしいトークを聞き、こちらはド素人な人だからとむしろ覚悟が決まった。真面



目一本か夫婦漫才路線か迷うまでもなく、最初の挨拶で「めおと…」と言いかけただけで会場がどっと湧いてくれた。先輩方が進行にハラハラされているのは痛いほど伝わってきたが、手違いは見逃して頂き、マイクを向ければ戻してもらうタイミングに困るくらい語ってもらい、つくづく清陵卒業生の底力を思い知らされた。素晴らしい記念すべき日となったことを皆さんに感謝したい。

(82回生 渡辺理恵)

## 「ベーシストになって」

清陵在学中に女神湖畔にあるホテルで演奏する機会がありました。初めて貰ったお金で湖畔通りの自販機で発泡性の飲み物を買って飲んだ時、それまでに感じた事のない充実感があり、これだ!!と思ってしまう、今に至ってしまいます。当日は皆さんの知っていそうな曲を3曲演奏させて頂きましたが、現在の活動は、広島、関西、山形交響楽団の首席チェロ奏者3人によって結成されたチェロ・ロックユニット「カンターナ」のサポート、「東京ラテン・アンサンブル」、「東京パーカッション・クルーズ」等のグループでの学校公演の他、いろいろです。あまりメジャーな物はありませんが、またどこかでお会い出来たらと思います。ありがとうございました。(82回生 田村直也)

## 「会報編集に携わって」

東京清陵会だより、それも120周年の記念号の編集を行うよう頼まれたのは12月の同期の忘年会でした。文系の連中も来ていたのに、何故理系の私に声がかかったかは謎でしたが、酒も入った勢いで引き受けてしまいました。後から聞いたら会報はスケジュール厳守。理系のほうが信頼できるとのことで、深い意味



はありませんでしたが……。

とはいえ編集など素人。特集や方針の成果物イメージが湧くよう、早期からマス目を切った最終形を作りその中に記事を埋めていく作業を繰り返しました。特集記事は割と早くにまとまったのですが、学年会通信が最後まで集まらず苦労しました。全体を通して一つのテーマを深掘りする編集は出来なかったかも知れませんが、週刊誌のように広く愉しんでいただけの内容にはなったように思います。

(82回生 竹内雅彦)

(東京清陵だより第26号、P9、母校の誇りの【経営者】に、77回生、堀田康之様、キッツ代表取締役社長、が抜けておりました。訂正してお詫び申し上げます)

## 「ハガキ作戦で 学年対抗に優勝」

62回生は1995年以来東京同年会を3年毎に開催してきましたので、名簿は整理してありクラス幹事から東京清陵会総会への参加のはがきを関東地方の同年生全員に送りました。それも東京清陵会報が送付される一週間前に届くよう配慮し、欠席予定者には個別に出席依頼の電話もしました。当日は元気な23名が出席して学年対抗最多数の表彰状を戴きました。62回生は後期高齢者でクラスメイトの約2割が逝去しています。総会参加者は年々減少するでしょう。今後も参加の呼びかけは継続しますが顔見せだけでなく一人一冊の「愛読書」の持ち寄りで交換会を開くなど提案いたします。

(62回生 小林國利)



## 「東京清陵会の参加コンテストに優勝した92回生です」

我々は、卒業して四半世紀を過ぎてなお、今も在校当時と変わらぬ関係が続いています。



忘年会や暑気払いは勿論のこと、同期が上京すると聞けば、何かにつけて集まり、夜更けまで酒を酌み交わし、語り合い、お互いに刺激を受け続けています。皆一様に、また清陵の集まりなのかと毎回家族に呆れられているようですが…。

長い時を経ても何故か集まってしまうのは、おそらく母校への愛校心と郷土愛によるものであり、これは他の学年の皆様も同様ではないでしょうか。そのような場所で高校生活を過ごせたことを、あらためて幸せに思います。東京清陵会では、声を掛けたところ多くの同期が集まってくれました。おかげさまで、久しく会っていない同期とも再会することができました。幹事学年となる十年後の東京清陵会に向けて、さらに結束を固めたいと思います。

(92回生 溝口浩司)

■総会当日の出席者が増えますようにとの願いを込めて、82回生は、学年対抗参加人数コンテストが継続されますよう、先輩部門・後輩部門の持ちまわり優勝カップを寄贈します。

## 「東京居酒屋散歩倶楽部 82活動報告」

数年前から東京在住の諏訪中OBで気楽な飲み会をしていたが、北原君、篠原君、宮坂君、野田に加えて二葉の持田女史、諏訪から河西女史が参加し、2014年、15年と春は花見、夏には合宿を敢行。飲んでいだけでは健康に差し障りがあるかと、帳尻合わせに散歩もすることとなった。山田君、金子君、青木君、波賀さんが加わり2015年10月、まずは宮坂君企画で平井にある彼の勤務先のライオン本社工場見学を行った。11月には渋谷勤務の野田の企画で渋谷・代官山歴史ツアー、明けて2016年1月は北千住在住の金子君の企画で浅草～北千住の日光街道を踏破。2万歩13キロを歩いてお

いしいお酒をいただいた。4月に早稲田・目白界隈を開催。今後は本郷・神田、上野谷根千などを企画している。ゆるーい散歩会なので集合は大概昼過ぎである。すぐ喉が渴いてしまう人が多く、夕方5時過ぎには乾杯の運びとなるため、体力に自信がない方の参加も歓迎。大東京のディープな横丁の散策は楽しいこと請け合いである。参加ご希望の方は北原君まで。

(82回生 高橋(野田)佳子)

■秋には、品川・大森コース、板橋・練馬コースも企画中です。

## 「当番幹事を代表して」

早いもので10月の総会から一年近くになる。昨年は120周年記念でもあり、「伝統に学ぶ」、「記憶に残る」、「未来に向けて」をテーマに運営した。「記憶に残る」総会懇親会では、何といたっても学年対抗出席人数コンテストだ。自分の学年の出席返信、欠席連絡は誰かとの問い合わせもたくさんいただき、盛り上がりを実感。優勝学年の弁にはなるべくしての優勝が語られた。初の夫婦司会で盛り上げた渡辺夫妻、同期異色の演奏家ベシスト田村直也君、地酒コーナー真澄の宮坂勝彦氏(107回生)は諏訪から上京、地元からのバスチャーターには石城校長も同乗、本部総会パネリスト黒田君も東京ではパネル裏方を担うなど同期に留まらず、多くの同窓生に参画いただいた。てんこ盛りとなった会報(編集長・竹内雅彦君)にも多くのエールをいただいた。感謝感激だ。当番幹事はその余韻を江戸東京居酒屋散歩倶楽部として継続している(高橋佳子さん)。今年は御柱祭、その高揚感神の領域に近づくと。あちこちでミニ同窓会が神の域に近づいたはずだ。本報告も今年度当番幹事83回生の配慮から2頁をいただき深謝申し上げます。

(82回生当番幹事代表 北原諒)

## 活性化ワーキンググループ5年目活動報告

# プレ就活新設、女子会復活、 新卒歓迎会は学生主催に

2012年から活動を開始した活性化ワーキンググループも5年目。3月の「ミドル交流会」は3回目、5月の「新卒歓迎・学生交流会」は4回目で、初めて、二年生と新卒学年幹事が開催幹事を務めた。新たに、7月には「女子会」が復活、また学年幹事会後の1時間に「お楽しみ懇親会」を開催、11月には2回目となる「働くことを考える学生の会」も開催準備中。

### 第1回 働くことを考える 学生の会報告

昨年11月29日(日)「第1回 働くことを考える学生の会」がアルカディア市ヶ谷にて開催された。このイベントは86回生が中心となり、はじめての就職活動を通じて人生の真のやりがいを考えてもらいたいと企画したもの。

第1部では、パネリストとして平島秀幸氏(86回生:サンスター 人事部給与グループ長)、林聡一氏(86回生:博報堂 人材開発戦略室グループマネージャー)、藤田あづさ氏(86回生:婦恋村国民健康保険診療所 所長)、武田正利氏(86回生:電通国際情報サービス 執行役員 ESセグメント長補佐)の4名が登壇し、ファシリテーターは細田明氏(86回生:税理士、フェアコンサルティング代表社員)が務めた。平島氏は、採用とは対極にある退職者の面談経験から捉えた仕事の現実を、林氏は、「偶然」と真剣に向き合い、一企業に長く身を置くことで見えてくるものを、藤田氏は、数々の職歴、体験をへて医師をめざした経緯を、武田氏は、転職をとおして人としての成長について語った。その後、細田氏が仕事観や真のやりがいについて質問を投げかけると、各パネリストからは熱いメッセージが伝えられた。第2部では、パネリストを囲んで参加者全員が4グループに分かれ、学生参加者との意見交換の場が設けられた。和やかな雰囲気の中、学生参加者からは、社会で活躍する先輩の話が直接聞くことができる絶好の機会となったとの感想が寄せられた。

(86回生 加藤正治)

### 第3回 ミドル交流会報告

3月6日、麹町の明治薬科大学・剛堂会館にて、参加者29名を集めて「第3回 ミドル交流会」が開催されました。金融コンサルタント、自衛官、評論家として活躍中の、いずれも84回生の3名の講師によるリレー講演会に始まり、パネルディスカッション、さらには二次会と、大いに盛り上がりました。以下、パネリストと参加者の感想を紹介します。

(84回生 赤羽俊昭)

貨幣経済の膨張と暴走が地球環境を悪化させた主犯だ、と思うのは私だけではないでしょう。「人間圏」の貨幣経済も、地球の多様な生命を育む「生態圏」の自然環境も、ともにその持続性に疑義が生じているのが現在の大問題なのです。ドル紙幣と金との交換を廃止した1971年8

月15日を境に地球環境は一気に悪化し始めました。そうした問題意識を多少なりとも共有できたならば、今回の報告には意義があったと言えるでしょう。

(パネリスト:84回生 藤森弘)

リレー講演は、それぞれが生きてきた道筋や思いが伝わってきて、深く考えさせられた。「みんな大人になったんだなあ」と妙な感覚に陥ったのは、高校生の自分がそこにいたからだだろう。また、年齢差を超えて「清陵」という共通項で繋がり、思いを共有できたことは新鮮な体験だった。心の内に清陵の魂があることを思い知り、今の毎日が大切なあの時代の続きだと思えた。昔を懐かしむだけではなく、前進する背中を押してもらえたような気がしている。(84回生 大和田敏子)



## 新卒歓迎・学生交流会報告

5月29日(日)にアルカディア市ヶ谷にて、35名が参加して2016年度新卒歓迎・学生交流会を行いました。

学生が主体となって運営する初めての会でしたので、手探りの状態ではありましたが20名近くもの新卒生に集まっていただくことができました。会では昼食を食べながら現役大学生や就活したばかりの先輩(114回林、115回平林、117回清水、118回帯川)のスピーチに耳を傾けました。歳の近い先輩の話聞けるようになったことで、新卒生に同窓会を身近に感じてもらえたのではないかと思います。今年から始まった学生主体の新卒歓迎交流会は119回、120回と引き継いでいくことになります。このようなイベントを通して若い世代の風を東京清陵会にもたせたらと思います。

(118回生 帯川恵輔)

背伸びをすること。清陵生らしさはそこにあります。今丁度、大学に物足りなさを感じて清陵生に会いたくなる

時期だと思います。そんな時だからこそ背伸びをして下さい。

沢山の大人と知り合って、会話できるようになって下さい。その為に1人で飲みに行きましょう。カウンターに座りましょう。1度体験して頂ければ私の言わんとすることが伝わることでしょ。清陵生らしい生意気な大学生になって下さい。(スピーカー:115回生 平林怜)

大学に入学して2ヶ月が経ち、この新卒歓迎会に参加させていただきました。関東に出ている119回生、幅広い代のOBの方々と交流できたことはとても良い刺激をもらえたと思っています。特に、OBの方々からいただいた言葉は、OBの方々の経験したこと、大学への考え方、これから経験していくべきことなど、自分を含め119回生全員聞き入っていました。清陵OBの方々とつながりができたことはとても良いことなので来年は自分たちが努めていきたいと思っています。

(119回生 平林蒼音)

## 学年幹事会后のお楽しみ懇親会

昨年から7月の幹事会は土曜午後開催となりました。せっかく休日に出席いただくので、コミュニケーションの機会として、議事終了後の1時間をお楽しみ懇親会としてワーキンググループで企画しました。講演などは勉強会もあることから、それ以外で幹事会出席者が楽しめる趣向として、コミュニケーション拡大に繋がるものを考えました。第一回は真澄を試飲しながらコミュニケーションする企画です。当日は海外イベントあり、真澄蔵元一族はご参加いただけませんでした。108回生の久納多恵さんが説明役で参加。真澄の三種類の銘酒を味わいながらの自己紹介は例年以上に盛り上がりました(久納さんは、急遽、学年幹事に就任し、全学年幹事選出となりました)。来年以降も、同窓生音楽家演奏会、芸術家などの作品鑑賞などいろんな趣向を凝らしたいと考えています。ご希望、出演の自薦他薦もお待ちしております。

(82回 北原譲)



## 第1回 東京清陵会女子会報告

7月9日土曜日。東京清陵会で新生女子部を立ち上げるにあたり、初めての「女子会」を開催いたしました。今回は、初顔合わせの意味も含め「オンナだけの大茶会」。実施は、仕事だけでなく、子育てや、家族との生活など女性特有の事情から解放されやすい土曜日の午後。場所は女子っぽく、南青山、外苑前の交差点近くのレストランにて。

「おしゃべり中心」ということで、スイーツや軽食とソフトドリンクで、とことん

語ろうという会にしました。

参加者の方々は、各学年同期のお友達を誘って参加して下さったのですが、同期だけでなく学年を超えた交流が図かれたと思います。これから、参加していただいた女子会メンバーを中心に「自分たちの望む形」の女子部を創生していくという意志を参加者の皆様と確認いたしました。ぜひ、今後の女子部へのご参加をお願いいたします。

(88回生 佐藤美智子)

## 第2回 働くことを考える学生の会 ~プレ就活イベント~案内

~真にやりがいのある仕事を見つけよう~

これから就職活動を迎える学生の皆さんが「働くこと」について考えを深められるように、昨年に引き続き本イベントを開催します。人生の真のやりがいとは何かを思索するヒントになれば幸いです。様々な職種の先輩によるパネルディスカッションや質問・意見交換コーナーなどを設ける予定です。学生の方にとって社会で活躍する先輩の話を直接聞くことができる絶好の機会ですので、奮ってご参加ください。

日時:11月27日(日)13:00~16:30

場所:剛堂会館

(千代田区紀尾井町3-27)

(開催幹事:89回生 金子哲哉、91回生 藤森裕司、117回生 清水創)



# 会費ならびに賛助金納入ありがとうございました

## 2015年度会費納入者ご芳名(2015年4月1日~2016年3月31日までに入金があった方)(敬称略)

58回	赤羽 正臣	60回	今井 将隆	62回	塩澤 瑞人	64回	長島 潔	68回	小島 一郎	72回	新井 滋平
58回	有賀 四郎	60回	小川 浩史	62回	滝澤 文教	64回	新村 恩	68回	小林 史宜	72回	飯澤 文夫
58回	石城 浩吉	60回	小口 征男	62回	竹内 洋平	64回	平林 正稔	68回	中村 一博	72回	会田 真菜
58回	伊藤 彰彦	60回	河西 善美	62回	長田 宏子	64回	藤森 弘	68回	名取 與平	72回	小口 邦雄
58回	伊藤 博敏	60回	金井 浩	62回	中谷 範行	64回	堀内 龍也	68回	林 道良	72回	小口 裕治
58回	内山 善一	60回	窪田 作栄	62回	野口 正喜	64回	渡辺 紹司	68回	原田 盛夫	72回	笠原 勇二
58回	大西 暲三	60回	小林 智昭	62回	藤森 汎	65回	池田 昌純	68回	深澤 豊昭	72回	清水 吉治
58回	小野 寿勇	60回	小松 寛之	62回	堀 浩泰	65回	岩波 武功	68回	藤森 照信	72回	武居 俊夫
58回	上條 衛	60回	五味 十四昭	62回	松澤 洋充	65回	河西 靖浩	68回	藤森 博彰	72回	戸谷 裕造
58回	小泉 力	60回	五味 良二	62回	三澤 祥地	65回	春日 芳夫	68回	古河 仁	72回	野口 俊樹
58回	小平 伯満	60回	古村 哲也	62回	宮澤 生行	65回	金子 充宏	68回	水沢 一夫	72回	古川 明美
58回	小平 克	60回	篠原 健	62回	両角 晃一	65回	小林 功典	68回	宮坂 満雄	72回	林 健康
58回	小林 哲	60回	給田 英哉	62回	矢沢 征吾	65回	小松 茂春	69回	一ノ瀬 輝海	72回	山田 多美枝
58回	小松 英夫	60回	高木 祥勝	62回	矢島 辰一	65回	進藤 瑞穂	69回	今井 陸裕	72回	矢崎 俊二
58回	五味 英毅	60回	高砂 智之	62回	山岡 洋二郎	65回	関 紀雄	69回	牛山 隆夫	73回	浅川 辰司
58回	五味 英毅	60回	高橋 尚志	62回	山本 龍夫	65回	田久保 昇	69回	小野 新正	73回	林 俊子
58回	田中 得一	60回	田口 稔	63回	赤羽根 巖	65回	中谷 奉文	69回	川村 美枝子	73回	窪田 敏
58回	茅野 充男	60回	永田 郷雄	63回	荒木 信行	65回	堀内 元雄	69回	木下 健治	73回	熊谷 靖樹
58回	寺島 亮三	60回	中野 誠	63回	伊藤 茂久	65回	松田 昌憲	69回	小林 宏	73回	小池 隆昭
58回	中澤 正衛	60回	福島 清	63回	伊藤 喜夫	65回	松本 禎之	69回	比田井 昌英	73回	小林 正和
58回	鈴木 由美子	60回	堀内 進	63回	海野 肇	65回	宮坂 孝康	69回	武村 光男	73回	五味 信治
58回	濱 實	60回	増沢 豊久	63回	大森 庄次	66回	太田 治人	69回	玉置 守好	73回	林 春幸
58回	齋藤 寛	60回	丸茂 敬昌	63回	岡本 隆之	66回	小口 治	69回	中村 正治	73回	原 大
58回	林 良一	60回	丸山 勝利	63回	小口 明秀	66回	笠原 昭重	69回	花岡 善郎	73回	原 秀男
58回	堀田 裕人	60回	宮澤 政文	63回	小口 哲二	66回	河合 三彦	69回	浜 照彦	73回	三浦 一洋
58回	眞下 テル	60回	山田 昌之	63回	尾澤 哲久	66回	五味 洋	69回	林 史章	73回	両角 誠
58回	宮坂 栄治	60回	山田 吉邦	63回	金井 英雄	66回	佐藤 武夫	69回	比田井 和子	73回	山田 雄一
58回	宮坂 健二	60回	弓削 裕和	63回	鎌倉 了	66回	徳永 忠次	69回	漆山 敏子	74回	瓦井 昭二
58回	宮坂 長秀	60回	横内 仁	63回	河合 信也	66回	長田 敏行	69回	宮坂 秀一	74回	金井 良一
58回	宮澤 立郎	61回	有賀 嘉信	63回	倉本 實	66回	花岡 忠良	69回	宮下 安彦	74回	北原 嘉泰
58回	守田 恒	61回	市川 澄渡	63回	小池 博人	66回	花岡 尚之	69回	宮部 直幸	74回	土屋 彰男
58回	両角 亮一	61回	小澤 興	63回	小松 廣茂	66回	林 央	69回	矢島 正昭	74回	中山 夏樹
58回	吉田 嵩	61回	川村 昌平	63回	五味 正得	66回	樋口 宗司	69回	柳平 克利	74回	松縄 茂
59回	金子 道子	61回	北原 隆	63回	斉藤 亨	66回	藤森 元規	69回	柳平 三雄	75回	有賀 一温
59回	伊藤 忠三	61回	藤澤 玄雄	63回	斉藤 紀之	66回	降幡 賢一	69回	山田 計夫	75回	伊東 晴俊
59回	小川 勝嗣	61回	小泉 和真起	63回	清水 洋右	66回	堀川 安久	69回	吉川 仁	75回	小平 聡
59回	小川 邦夫	61回	飯田 玉樹	63回	須澤 允晴	66回	松田 洋	69回	渡辺 泰弘	75回	浜 興治
59回	加賀美 久高	61回	古村 民司	63回	高木 宣輔	66回	丸茂 雅弘	70回	石田 和夫	75回	宮下 和彦
59回	河西 敏行	61回	坂本 勇喜	63回	徳留 淳朔	66回	生越 万理子	70回	岩垂 進	75回	安木 良術
59回	加藤 光健	61回	篠遠 哲夫	63回	中村 詔行	66回	宮島 忠之	70回	小口 隆夫	76回	五味 篤
59回	金子 政喜	61回	武井 裕頼	63回	藤森 宏一	66回	米窪 修明	70回	垣内 国光	76回	関屋 孝行
59回	桑原 敏次	61回	寺島 健司	63回	松野 洋一	67回	池上 志乃子	70回	香山 寛	76回	田中 修
59回	小林 邦明	61回	内藤 信明	63回	丸山 佳広	67回	落合 勝彦	70回	唐木 康正	76回	田沼 修士
59回	小松 巖	61回	中村 功	63回	溝口 登	67回	笠原 久則	70回	久保田 功一	76回	中島 真一
59回	小松 守	61回	中村 隆一	63回	蜜澤 裕二	67回	小平 攻	70回	小林 和男	76回	花岡 博茂
59回	五味 隆	61回	名取 将	63回	宮坂 尚利	67回	五味 卷二	70回	小林 金好	76回	林 友則
59回	清水 真幸	61回	林 宏一	63回	守屋 憲一	67回	笹岡 仟治	70回	清水 英俊	76回	原 正悟
59回	白倉 徹哉	61回	藤森 幹仁	63回	両角 實	67回	武田 英太郎	70回	竹村 善隆	76回	藤森 政敏
59回	高橋 靖夫	61回	細田 純一	63回	亘理 美代子	67回	竹村 俊保	70回	土橋 務	77回	伊藤 潔
59回	武居 英次	61回	堀内 洋治	63回	柳沢 寛	67回	竹村 善雄	70回	中村 典男	77回	春日 敏彦
59回	田中 虔一	61回	松澤 良治	63回	山田 勝雅	67回	土橋 修平	70回	飯島 由美子	77回	小林 良人
59回	千野 光久	61回	宮坂 敦文	63回	山田 迪男	67回	中山 彦太郎	70回	中谷 敬	77回	西谷 弘美
59回	土橋 俊夫	61回	山崎 宏三	64回	青島 正明	67回	林 武昭	70回	橘爪 伸由	77回	薩摩林 恭子
59回	中川 良平	61回	山本 裕一	64回	赤羽 正行	67回	原 美津子	70回	浜 敬三	77回	西村 いつみ
59回	濱 實	62回	秋田 英一	64回	井澤 正行	67回	樋口 善一	70回	柳田 節子	77回	金子 恵子
59回	津金 勝巳	62回	岩波 信夫	64回	川村 洋二	67回	平林 千義	70回	平山 哲三	77回	堀田 康之
59回	藤沢 修三	62回	牛山 保美	64回	垣内 直	67回	細川 正行	70回	細川 芳雄	78回	小松 一俊
59回	堀内 敏宏	62回	小口 倫弘	64回	笠原 碩昭	67回	丸茂 義典	70回	松島 明	78回	南保 勝美
59回	松澤 俊志	62回	小口 普臣	64回	金原 恵弘	67回	守矢 早苗	70回	藤森 行雄	78回	宮坂 彰志
59回	宮川 良一	62回	河西 巳喜雄	64回	木川 史弘	67回	山本 金男	71回	伊藤 洋一	78回	宮原 佳彦
59回	宮澤 次郎	62回	笠原 俊城	64回	小泉 壽弘	67回	横田 森太郎	71回	岩波 正和	78回	両角 明
59回	向山 喜一	62回	金子 浩之	64回	小林 宇夫	68回	赤羽 清明	71回	森 さと子	79回	青沼 巻弘
59回	森元 功	62回	小林 公人	64回	五味 勝	68回	伊藤 光具	71回	岩本 達雄	79回	飯田 良
59回	矢崎 悦郎	62回	小林 國利	64回	清水 治弘	68回	笠原 知幸	71回	磯野 康子	79回	八嶋 美保
59回	矢崎 豊国	62回	斎藤 信男	64回	祖父江 宏三	68回	笠原 斉	71回	五味 常明	79回	中村 千代子
59回	矢島 勲	62回	薩摩林 俊彦	64回	武井 元昭	68回	木村 信夫	71回	増澤 博和	79回	小平 茂雄
60回	池場 康友	62回	佐藤 仁宏	64回	津金 健一	68回	栗林 秀吉	71回	森 史朗	79回	五味 稔典

79回 林 博志	81回 矢崎 理恵	82回 村松 俊樹	84回 島崎 義都	89回 城取 重行	109回 山川 祐矢
79回 三井 夏海	81回 小平 均	82回 渡辺 真一	84回 清水 信次	89回 両角 はるか	
79回 大平 晋子	81回 五味 正信	83回 内川 昇	84回 野村 典亨	90回 荒井 要	
80回 青沼 裕之	81回 中野 則雄	83回 小松 裕	84回 羽田 憲彦	91回 北澤 久美	
80回 北沢 靖久	81回 三枝 貴	83回 岡本 徹	85回 臼井 利公	92回 高原 由紀子	
80回 工藤 千秋	81回 矢崎 公二	83回 中村 美穂	85回 片岡 由美	92回 仲田 優	60回 小口 一老
80回 畑 理子	81回 松原 雅子	83回 原 孝彦	85回 竹村 政哉	92回 西村 和訓	60回 田口 稔
80回 花岡 友子	82回 青木 基浩	83回 原 正己	86回 猪股 顕文	92回 溝口 浩司	73回 和泉 桂子
80回 畑 博明	82回 今井 俊雄	83回 藤森 千秋	86回 武田 正利	93回 柳澤 寿男	76回 五味 篤
80回 米澤 あ子	82回 小野 隆吾	83回 松崎 任宏	86回 野明 浩史	96回 熊谷 和則	77回 田添 珠実
80回 藤森 正樹	82回 北原 譲	83回 森 政宏	88回 須藤 美香里	96回 浜 真由美	88回 赤池 一馬
80回 宮坂 宜男	82回 佐野 研二	83回 矢頭 峰夫	88回 藤森 裕基	97回 川崎 剛	
81回 山本 留美	82回 篠原 誠一	84回 赤羽 俊昭	88回 増澤 浩一	98回 矢沢 恵一	
81回 濱 知由利	82回 竹内 雅彦	84回 飯田 秀機	88回 藤原 亜弓	99回 荒木 健太郎	
81回 加藤 博之	82回 渡辺 理恵	84回 小口 高	89回 金子 哲哉	99回 藤本 雅子	
81回 河合 俊明	82回 那須野 秀二	84回 小海 健治	89回 佐藤 吉英	99回 川村 大輔	

**今会計期  
(2016年度)**  
(2016年7月10日現在)

**2015年度賛助金納入者ご芳名(2015年4月1日~2016年3月31日までに入金のあった方)(敬称略)**

38回 北原 文雄	57回 和田 昭通	61回 林 宏一	64回 堀内 龍也	70回 土橋 務	84回 赤羽 俊昭
43回 小松 荘亮	58回 赤羽 正臣	61回 細田 純一	64回 横内 敏幸	70回 浜 敬三	84回 小口 高
44回 五味 誠	58回 石城 浩吉	61回 堀内 洋治	64回 渡辺 紹司	70回 細川 芳雄	84回 小海 健治
45回 林 四郎	58回 大西 暉三	61回 山崎 宏三	65回 池田 昌純	70回 松島 明	84回 羽田 憲彦
46回 小泉 和明	58回 小野 寿勇	62回 牛山 保美	65回 河西 靖浩	70回 藤森 行雄	88回 藤森 裕基
46回 武井 清六	58回 上條 衛	62回 河西 巳喜雄	65回 春日 芳夫	71回 伊藤 洋一	89回 金子 哲哉
46回 増澤 喜美夫	58回 小泉 力	62回 笠原 俊城	65回 金子 充宏	71回 岩本 達雄	89回 佐藤 吉英
47回 平出 香	58回 小平 伯満	62回 金子 浩之	65回 関 紀雄	71回 磯野 康子	89回 両角 はるか
48回 小林 賢吉	58回 小平 克	62回 小林 國利	65回 堀内 元雄	71回 増澤 博和	90回 荒井 要
48回 鈴木 徹	58回 小松 英夫	62回 滝澤 文教	65回 松本 禎之	72回 野口 俊樹	92回 高原 由紀子
48回 宮坂 勝郎	58回 田中 得一	62回 竹内 洋平	66回 小口 治	72回 林 健康	92回 仲田 優
49回 牛山 精一	58回 鈴木 亮三	62回 長田 宏子	66回 河合 三彦	72回 矢崎 俊二	93回 柳澤 寿男
49回 小池 光麿	58回 寺島 由美子	62回 中谷 範行	66回 佐藤 武夫	73回 淺川 辰司	98回 矢沢 恵一
49回 中村 登紀夫	58回 齋藤 寛	62回 野口 正喜	66回 長田 敏行	73回 窪田 敏	99回 川村 大輔
49回 松木 庄師	58回 眞下 テル	62回 藤森 汎	66回 林 央	73回 熊谷 靖樹	109回 山川 祐矢
50回 小坂 幸三	58回 宮坂 健二	62回 堀 浩泰	66回 松田 洋	73回 小林 正和	
50回 五味 隆俊	58回 宮坂 長秀	62回 三澤 祥地	66回 宮島 忠之	73回 原 大	<b>納入いただいた賛助金 内訳</b>
50回 鈴木 孝	58回 守田 恒	62回 宮澤 生行	67回 落合 勝彦	73回 原 秀男	100,000円 1人
50回 寺島 敏郎	58回 吉田 嵩	62回 矢沢 征吾	67回 竹村 保俊	73回 三浦 一洋	52,000円 1人
50回 野口 健児	59回 小川 勝嗣	63回 赤羽根 巖	67回 土橋 修平	74回 金井 良一	30,000円 2人
51回 岩波 裕治	59回 小川 邦夫	63回 伊藤 茂久	67回 林 武昭	74回 松縄 茂	28,000円 1人
51回 小松 袈伴	59回 加藤 光健	63回 伊藤 喜夫	67回 丸茂 義典	76回 関屋 孝行	20,000円 2人
51回 橋渡 勇	59回 金子 政喜	63回 尾澤 弘久	67回 守矢 早苗	76回 林 友則	18,000円 2人
51回 林 伸之	59回 五味 隆	63回 金井 英雄	67回 横田 森太郎	77回 伊藤 潔	14,785円 1人
51回 林 将雄	59回 濱 實	63回 鎌倉 了	68回 笠原 知幸	77回 春日 敏彦	10,000円 16人
51回 横川 端	59回 堀内 敏宏	63回 河合 信也	68回 木村 信夫	77回 小林 良人	9,000円 1人
52回 篠原 剛	59回 松澤 俊志	63回 小池 博人	68回 小島 一郎	77回 西谷 弘美	8,000円 28人
52回 友野 弘	59回 向山 喜一	63回 清水 洋右	68回 小林 史宜	77回 西村 いづみ	7,000円 2人
52回 名取 史朗	59回 矢崎 豊国	63回 徳留 淳朔	68回 中村 一博	77回 金子 恵子	6,000円 4人
52回 林 尚孝	60回 池場 康友	63回 中村 詔行	68回 名取 與平	77回 堀田 康之	5,000円 15人
52回 藤森 昇	60回 小川 浩史	63回 藤森 宏一	68回 深澤 豊昭	78回 南保 勝美	4,000円 9人
52回 宮坂 貞	60回 河西 善実	63回 松野 洋一	68回 藤森 照信	78回 宮原 佳彦	3,000円 85人
56回 荻原 能男	60回 窪田 作栄	63回 丸山 佳広	68回 藤森 博彰	78回 両角 明	2,000円 59人
56回 小泉 幸雄	60回 五味 良二	63回 溝口 登	68回 古河 仁	79回 青沼 巻弘	1,000円 31人
56回 下平 勝幸	60回 古村 哲也	63回 守屋 憲一	68回 宮坂 満雄	79回 小平 茂雄	
56回 神宮字 剛	60回 給田 英哉	63回 両角 實	69回 小野 新正	79回 大平 晋子	
56回 永坂 一郎	60回 給田 英哉	63回 西理 美代子	69回 川村 美枝子	80回 宮坂 宜男	
56回 中澤 金司	60回 高木 祥勝	63回 米山 勉男	69回 武村 光男	81回 山本 留美	
56回 松見 佳樹	60回 高砂 智之	64回 井澤 正行	69回 林 史章	81回 濱 知由利	
56回 渡部 清	60回 高橋 尚志	64回 川村 洋二	69回 漆山 敏子	81回 河合 俊明	
57回 池田 賜恩	60回 永田 郷雄	64回 垣内 直	69回 矢島 正昭	81回 小平 均	
57回 今井 恒夫	60回 増沢 豊久	64回 木川 史弘	69回 柳平 三雄	81回 五味 正信	
57回 五味 乙	60回 丸山 勝利	64回 小林 宇夫	69回 吉川 仁	82回 小野 隆吾	
57回 篠原 康夫	60回 宮澤 政文	64回 五味 勝	69回 渡辺 泰弘	82回 北原 譲	
57回 武田 進吾	60回 横内 仁	64回 清水 治弘	70回 小口 隆夫	82回 村松 俊樹	
57回 竹田 守男	61回 小澤 興	64回 祖父江 宏三	70回 垣内 国光	83回 岡本 徹	
57回 手塚 秀吾	61回 川村 昌平	64回 清水 治弘	70回 久保田 功一	83回 藤森 千秋	
57回 花岡 睦男	61回 飯田 玉樹	64回 長島 潔	70回 小林 和男	83回 松崎 任宏	
57回 樋口 祐三	61回 坂本 勇喜	64回 新村 恩	70回 小川 善隆	83回 矢頭 峰夫	
	61回 中村 隆一	64回 藤森 弘			

**今会計期  
(2016年度)**  
(2016年7月10日現在)

**納入いただいた賛助金  
内訳**

※納入いただいた賛助金について、個人別金額記載を取り止め金額別内訳としました。ご了承ください。

東京清陵会の現状 データから見た現勢(2016年6月30日現在)。①東京清陵会会員の定義：首都圏(東京、神奈川、千葉、埼玉、群馬、栃木)在住の同窓生(ただし、退会申出者を除く)及び首都圏を離れたが会費を納入している同窓生。②会員総：3,173名(住所不明者1,250名を除く)。内訳は、東京1,471名、神奈川645名、千葉398名、埼玉389名、茨城67名、群馬23名、栃木25名、その他155名。③会費納入状況：納入者数、会費470名、賛助金257名、計534名。・年次別会員数及び会費納入者数(別表1)。・年度別納入額及び納入者数(別表2)。

別表1 年次別会員数と2015年度期会費納入状況(2016年6月30日現在)

Table with 4 columns: 回生, 現員, 不明, 計, 会費. It contains four sub-tables showing membership and fee payment data for different age groups (e.g., ~34, 35-45, 46-55, 56-57).

- 注1) 現員:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が把握できている方
2) 不明:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が不明な方
3) 会費:前会計期(2015.4~2016.3)会費あるいは賛助金納入者の人数(前納者含む)
会費免除会員(2015年度時点で80歳以上と25歳以下)の人数 941名
4) 会費納入者数 534名と前年度期納入者数の差は前納者、その他による

別表2 年度別会費等納入額および納入者数

Table with 4 columns: 年度, 納入額, 納入者数. It lists annual fee payment totals and member counts from Heisei 17 to Heisei 26.

注) 平成17~19年度期以降の納入額には賛助金も含め会費等として処理している。

別表3 会員数と次期繰越金の推移

Table with 4 columns: 年, 会員数(名), 不明者数(名), 次期繰越金(円). It shows the trend of membership and carry-over fees from 2002 to 2015.

- 注1) 次期繰越金は各年度の3月末現在
2) 会員数、不明者数は翌年度の5~7月現在
2015年度は2016年6月末現在

2016年度収支予算(案)自2016年4月1日~至2017年3月31日(単位:円)

支出の部

Table with 2 columns: 科目, 金額. It lists various expenses such as total fees, meeting fees, and administrative costs.

収入の部

Table with 2 columns: 科目, 金額. It lists various income sources including total fees, meeting fees, and administrative income.

(注)2016年度予算の収支差額は6,200円の剰余金となります。

収支計算書(案)自2015年4月1日~至2016年3月31日(単位:円)

収入の部

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異(予算の方が). It details the budget and actual results for income items like fees and donations.

支出の部

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差異. It details the budget and actual results for expense items like administrative costs and other expenses.

寄付金:本部 40,000 学校:10,000

# 東京清陵会役員(案) (任期 2016年11月~2018年10月)

会長	平林 千義 (67回生)※	幹事	上原 秀秋 (49回生)	幹事	武田 正利 (86回生)
副会長	長田 宏子 (62回生)	幹事	松木 庄師 (49回生)	幹事	蟹澤 啓明 (87回生)
副会長	守矢 早苗 (67回生)	幹事	小松 良樹 (51回生)	幹事	須藤 美香里 (88回生)※
副会長	原 大 (73回生)※	幹事	笠原 哲次 (52・55回生)	幹事	藤森 裕基 (88回生)
会計幹事	小海 健治 (84回生)※	幹事	上條 菅雄 (52・55回生)	幹事	両角 はるか (89回生)※
監査幹事	今井 恒夫 (57回生)	幹事	土田 博敏 (56回生)	幹事	藤江 美智 (90回生)
監査幹事	有賀 朝彦 (63回生)※	幹事	五味 英明 (58回生)	幹事	古村 雅利 (90回生)※
事務局長	北原 讓 (82回生)※	幹事	矢崎 悦郎 (59回生)	幹事	太田 美和 (91回生)※
事務局長次長	小林 國利 (62回生)	幹事	篠原 健 (60回生)	幹事	小口 一貴 (92回生)
事務局長次長	関屋 孝行 (76回生)	幹事	宮澤 政文 (60回生)	幹事	仲田 優 (92回生)
事務局長次長	矢崎 理恵 (81回生)※	幹事	早川 次彦 (61回生)	幹事	溝口 浩司 (92回生)
事務局長次長	岡本 徹 (83回生)※	幹事	中谷 範行 (62回生)	幹事	松本 悦明 (93回生)
事務局長次長	赤羽 俊昭 (84回生)	幹事	藤森 汎 (62回生)	幹事	原 豊 (94回生)
事務局長次長	清水 俊次 (84回生)※	幹事	松野 洋一 (63回生)	幹事	宮下 正臣 (94回生)
事務局長次長	佐藤 美智子 (88回生)※	幹事	垣内 直 (64回生)	幹事	宮坂 直木 (95回生)
事務局長次長	荒木 健太郎 (99回生)※	幹事	祖父江 宏三 (64回生)	幹事	田中 聡久 (96回生)
顧問	寺島 敏郎 (50回生)	幹事	古村 浩三 (65回生)	幹事	丸山 伸也 (97回生)
顧問	林 尚孝 (52・55回生)	幹事	丸山 伸也 (97回生)	幹事	丸山 伸也 (97回生)
顧問	小川 勝嗣 (59回生)	幹事	林 央 (66回生)	幹事	森 英一 (98回生)
顧問	藤森 宏一 (63回生)※	幹事	小平 攻 (67回生)	幹事	小口 博正 (100回生)
顧問	生越 万理子 (66回生)	幹事	小林 盛男 (68回生)	幹事	岡 真也 (101回生)
常任幹事	鈴木 敬 (48回生)	幹事	比田井 昌英 (69回生)	幹事	福島 洋一 (102回生)※
常任幹事	野口 健児 (50回生)	幹事	一瀬 益夫 (70回生)	幹事	三宅 大作 (104回生)
常任幹事	増澤 照久 (51回生)	幹事	久保田 功一 (70回生)	幹事	福島 理雄 (105回生)※
常任幹事	寺島 亮三 (58回生)	幹事	北澤 一保 (71回生)	幹事	小池 伸 (106回生)
常任幹事	米山 迪男 (63回生)	幹事	市村 敏夫 (72回生)	幹事	間宮 薫 (107回生)
常任幹事	金子 充宏 (65回生)※	幹事	林 俊子 (73回生)	幹事	久納 多恵 (108回生)※
常任幹事	春山 明哲 (68回生)	幹事	両角 誠 (73回生)	幹事	山川 裕矢 (109回生)
常任幹事	林 健康 (72回生)※	幹事	北原 嘉泰 (74回生)	幹事	小口 七海 (109回生)
常任幹事	有賀 一温 (75回生)	幹事	伊藤 せい子 (75回生)	幹事	小林 雄一 (109回生)
常任幹事	後調 正則 (76回生)※	幹事	平出 敏 (75回生)	幹事	柳澤 広誠 (110回生)
常任幹事	石埜 穂高 (78回生)	幹事	金子 次男 (76回生)	幹事	山田 ちえ (110回生)※
常任幹事	米澤 あ子 (80回生)	幹事	宮坂 英二 (77回生)	幹事	中村 太軌 (111回生)
常任幹事	田中 達也 (81回生)	幹事	東城 清秀 (78回生)	幹事	田中 正明 (112回生)※
常任幹事	森 政宏 (83回生)※	幹事	宮原 佳彦 (78回生)	幹事	北原 智啓 (113回生)
常任幹事	細田 明 (86回生)	幹事	原田 健 (79回生)	幹事	林 毅 (114回生)※
常任幹事	金子 哲哉 (89回生)※	幹事	丸山 重久 (79回生)	幹事	平林 怜 (115回生)
常任幹事	藤森 裕司 (91回生)	幹事	藤森 正樹 (80回生)	幹事	石城 陽太 (116回生)
常任幹事	高林 祐介 (103回生)	幹事	脇坂 守一 (80回生)	幹事	太田 恵輔 (116回生)
常任幹事	勝 美穂 (110回生)※	幹事	五味 正信 (81回生)	幹事	笠原 千鶴 (116回生)
幹事	黒河内 三郎 (42回生)	幹事	安川 昌昭 (81回生)	幹事	清水 創 (117回生)
幹事	深澤 真人 (43回生)	幹事	篠原 誠一 (82回生)	幹事	帯川 恵輔 (118回生)
幹事	小泉 和明 (46回生)	幹事	竹内 雅彦 (82回生)	幹事	五味 梨香 (118回生)※
幹事	増澤 喜美夫 (46回生)	幹事	山田 実 (82回生)	幹事	茅野 理子 (118回生)※
幹事	宮坂 正昭 (47回生)	幹事	小松 裕 (83回生)	幹事	小野 俊 (119回生)※
幹事	宮坂 勝郎 (48回生)	幹事	飯田 秀機 (84回生)	幹事	土屋 優結 (119回生)※
		幹事	大和田 敏子 (84回生)※	幹事	寺島 菜穂 (119回生)※
		幹事	矢崎 治孝 (84回生)	幹事	平林 蒼音 (119回生)※
		幹事	一ノ瀬 俊明 (85回生)	幹事	由井 恭介 (119回生)※
		幹事	両角 英幸 (85回生)		
		幹事	加藤 正治 (86回生)		
		幹事	波賀 かおり (86回生)		

※新任 (2016年10月総会以降就任)

## 第26回ゴルフコンペのご案内

会員の交流・親睦を兼ねてゴルフコンペを下記の要項で開催します。同期生などお誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。

●日時:10月15日(土) 8時30分集合 9時スタート

●場所:紫カントリークラブ あやめ36 西コース

(常磐自動車道・柏I.Cから、約20分。つくばエクスプレス・流山おおたかの森駅で東武野田線に乗り換え、東武野田線「野田市駅」下車。タクシーで約10分。)

●プレー代:約19,000円(食事付) 会費:5,000円

参加希望の方は、☎03-3518-2385 スタジオバラム=清水(84回生)まで。FAXの場合は、住所・氏名・卒業回・連絡先を明記の上、お申し込みください(FAX:03-3518-2386)。

●幹事=藤森宏一(63回生)、小海健治(84回生)

今年4月19日に行われた第25回ゴルフコンペ。16名が参加、優勝は宮坂尚利さん(63回生)、準優勝大田弘道さん(56回生)。



「東京清陵会」  
ゴルフ同好会



# 東京清陵会2015年度会務報告

## 2015

- 4・8 当番学年(82回生)第4回編集会議／進行会議(本郷事務局)
- 4・11 第1回事務局会議(本郷事務局)
- 4・22 南信同窓連第51回ゴルフ会(中山CC)8校21名
- 4・23 第23回東京清陵会ゴルフコンペ(紫CCあやめ36)参加者19名
- 4・28 第151回清陵勉強会(剛堂会館)講師 佐野研二(82回生)、村松俊樹(82回生)
- 5・10 大学生・新卒者交歓会(アルカディア市ヶ谷)参加者34名
- 5・16 南信同窓連総会・懇親会(ホテルメトロポリタンエンドモント)
- 5・20 当番学年(82回生)第5回編集会議／進行会議(本郷事務局)
- 5・27 第12回寒水会(伊藤長七研究会)
- 5・30 清陵本部幹事会(清陵会館)
- 6・10 当番学年(82回生)第6回編集会議／進行会議(本郷事務局)
- 6・21 常任幹事会(アルカディア市ヶ谷)出席者27名
- 6・23 第152回清陵勉強会(剛堂会館)講師 白川浩司(64回生)
- 6・27 清陵本部同窓会総会・懇親会(紅や)
- 7・1 第13回寒水会(伊藤長七研究会)
- 7・4 東京同窓連総会・50周年記念式典(アルカディア市ヶ谷)
- 7・8 当番学年(82回生)第7回編集会議／進行会議(本郷事務局)
- 7・18 学年幹事会(アルカディア市ヶ谷)出席者50名
- 7・29 第14回寒水会(伊藤長七研究会)
- 8・5 当番学年(82回生)第8回編集

- 議／進行会議(アルカディア市ヶ谷)
- 8・11 会報「東京清陵会だより」26号発行 発送部数(3,212部)
- 8・25 第153回清陵勉強会(剛堂会館)講師 五味篤(76回生)
- 8・27 第15回寒水会(伊藤長七研究会)
- 9・2 当番学年(82回生)第9回編集会議／進行会議(本郷事務局)
- 9・16 当番学年(82回生)第10回編集会議／進行会議(本郷事務局)
- 9・30 当番学年(82回生)第11回編集会議／進行会議(本郷事務局)
- 10・4 第49回東京清陵会総会・懇親会(アルカディア市ヶ谷)参加者275名
- 10・18～19 南信同窓連親睦旅行(房総・横須賀)
- 10・24 本部創立120周年記念式典・祝賀会及び記念講演
- 10・27 第154回清陵勉強会(剛堂会館)講師 小口高(84回生)
- 10・29 第24回東京清陵会ゴルフコンペ(紫CCあやめ36)参加者19名
- 11・8 第16回寒水会(伊藤長七研究会)
- 11・10 南信同窓連第52回ゴルフ会(中山CC)
- 11・14 物故会員慰霊法要(地蔵寺)及び清陵本部常任幹事会
- 11・21 第2回事務局会議(本郷事務局)
- 11・29 第1回働くことを考える学生の会(アルカディア市ヶ谷)参加者35名
- 12・4 南信同窓連忘年会(東京オペラシティ東天紅)
- 12・8 第155回清陵勉強会(松濤サロン)講師 後調正則(76回生)
- 12・23 第17回寒水会(伊藤長七研究会)

## 2016

- 1・21 当番学年(83回生)第1回編集会議／進行会議(本郷事務局)
- 2・6 東京同窓連新年懇親会(アルカディア市ヶ谷)
- 2・16 当番学年(83回生)第2回編集会議／進行会議(本郷事務局)
- 2・11 第18回寒水会(伊藤長七研究会)
- 2・23 第156回清陵勉強会(剛堂会館)講師 武居勇二(59回生)
- 3・6 第3回ミドル交流会(剛堂会館)参加者29名
- 3・14 東京同窓連第18回親睦ゴルフ会(川越カントリークラブ)
- 3・16 当番学年(83回生)第3回編集会議／進行会議(本郷事務局)

## 訃報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます(敬称略)。

氏名	年次	逝去年月日
藤森 千史	38回	2015/
矢ヶ崎 孝雄	38回	2015/10/
宮坂 伊兵衛	40回	2015/5/3
小口 良治	41回	2014/12/18
坂本 芳文	43回	2014/12/17
小口 三郎	44回	2015/3/3
仁科 光雄	44回	2015/8/22
矢崎 昌男	44回	2011/9/11
林 武志	47回	2014/5/4
原 尚道	47回	2015/6/21
小池 昭彦	48回	2015/11/2
飯田 昭平	49回	2015/4/5
今井 裕雄	49回	2015/7/10
田中 義郎	49回	2016/3/16
細田 与一	49回	2015/12/28
増澤 國泰	49回	2015/11/21
宮下 幾蔵	49回	2015/11/16
繁宮 治夫	50回	2016/4/30
荻上 泰男	52回	2015/7/10
矢崎 光保	52回	2015/8/18
矢島 汎	52回	2014/12/13
小林 康平	56回	2013/10/20
増澤 修	56回	2014/7/13
伊藤 廣美	57回	2016/7/7
山崎 元一	57回	2015/1/
竹部 武光	58回	2016/6/7
宮坂 喜代司	58回	2015/1/3
宮坂 圭一	58回	2015/10/23
矢嶋 清七	58回	2016/3/18
小林 公直	59回	2015/3/1
丸山 勝利	60回	2015/1/5
山田 昌之	60回	2015/10/
中村 功	61回	2016/5/13
丸茂 和夫	61回	2015/2/22
鮎沢 智明	62回	2012/11/30
五味 清英	62回	2015/3/
細川 宣臣	62回	2015/11/22
宮坂 英一	62回	2015/5/10
宮坂 宗樹	65回	2016/3/14
矢島 忠男	67回	2015/4/3
野村 秀明	69回	2016/
石井 和夫	71回	2015/5/7
柳澤 美葉	77回	2015/7/3
山田 覚	79回	2015/5/28

●事務局に連絡が入った方

## 東京清陵会2016年度事業計画

- 1 第50回総会・懇親会の開催(10月2日・アルカディア市ヶ谷)
- 2 会報「東京清陵会だより」27号の発行(8月初～中旬)
- 3 常任幹事会、学年幹事会の開催(6月、7月・剛堂会館)
- 4 当番学年(83回生)編集会議／進行会議(随時・本郷事務局)
- 5 事務局会議(定例、臨時・本郷事務局)
- 6 新卒者・学生交流会の開催(5月29日・アルカディア市ヶ谷)
- 7 働くことを考える学生の会(プレ就活)開催(11月27日・剛堂会館)
- 8 ミドル交流会の開催(2017年3月5日・アルカディア市ヶ谷)
- 9 女子の会の開催(7月9日・青山)
- 10 清陵勉強会(原則偶数月の第4火曜日・剛堂会館)
- 11 会員増強策の検討、実行
- 12 東京清陵会ホームページの管理
- 13 懇親ゴルフ会の開催
- 14 寒水会(伊藤長七研究会、小石川高校同窓会紫友会との共催)への参加
- 15 本部同窓会、南信同窓連、東京同窓連行事への参加
- 16 その他必要とする事業

## 編集後記

1985年制作の映画『バック・トゥ・ザ・フューチャー』。主人公が30年前にタイムスリップし、そこで高校生自分の両親と出会うという物語。この会報の編集は私にとってまさに「バック・トゥ・ザ・フューチャー」でした。30年以上昔の同級生や自分と出会い、半世紀以上前の清陵生や清陵高校に出会いました。編集作業は「時間旅行」、非日常の時間と空間に遊んだ数か月でした。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。(83回生 倉田重子)